

# 重茂館遺跡群

—重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

(第5次発掘調査)

2017.3

岩手県宮古市教育委員会



# 重茂館遺跡群

－重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

(第5次発掘調査)

2017.3

岩手県宮古市教育委員会



## 序

本州最東端に位置する岩手県宮古市には現在のところ 680 か所の遺跡が確認されています。私たちは先人が残した遺跡を保護することが市民へ課せられた責務であると考えております。

一方で住宅や道路を始めとする土地開発は現代において快適な生活を送るためには不可欠な行為であります。その中で遺跡における開発行為については協議、調整を重ねることにより遺跡の保存と土地開発が調和できるよう努めておりますが、やむを得ず失われる遺跡については記録保存を目的とする発掘調査を行っているところであります。

本書は宮古市重茂漁業協同組合を事業主体者とする重茂給油所建設に伴い実施された発掘調査の報告になります。住宅が建ち並ぶ高台において今から 4,500 年前に遡る縄文時代中期の遺物が数多く出土し、当該期の貴重な資料を得ることが出来ました。

本書が広く活用され、考古学や地域の歴史研究に寄与し、埋蔵文化財に対する関心が高まる事を切に希望いたします。

最後となりましたが、今回の発掘調査と報告書作成に御協力賜りました重茂漁業協同組合をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

宮古市教育委員会  
教育長 伊藤 晃 二



## 例言

1. 本書は宮古市重茂地区に所在する重茂館遺跡群の第5次調査についての発掘調査報告書である。
2. この調査は、重茂漁業協同組合を工事主体とする重茂給油所建設工事に伴う記録保存を目的とした緊急事前調査として実施されたものである。
3. 調査主体は宮古市教育委員会である。発掘調査は文化課の安原、長谷川、江口が、本書の執筆・編集は江口が担当し、文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標は公共座標 X 系を基準としたものである。座標値は  $X = -45,000$  m、 $Y = 10,200$  m を原点とした。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するために R を冠した。レベル数値は第5図記載の「B. M」を基準としている。
5. 土層観察及び文中の色調表記にあたっては『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 編著 1990 年度版）を使用した。
6. 図版中の記号・略号の表記およびスクリーントーンの表示は以下のとおりである。  
P…土器      S…石       …焼土       …磨石の機能面
7. 遺構番号は第4次調査のそれに続いている。
8. 遺物の観察は全て肉眼観察によるものである。
9. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

## 目次

序

例言

目次 表目次 図版目次 写真図版目次

1 調査経過	1
(1) 調査に至る経過	1
(2) 調査概要	1
(3) 調査体制	1
(4) 宮古市の位置と環境	2
(5) 重茂館遺跡群と周辺の遺跡	3
2 調査内容	8
(1) 基本土層	8
(2) 遺構と遺物	8
(3) 調査のまとめ	36
参考文献	
写真図版	37
報告書抄録	50

## 表 目 次

出土遺物観察表 .....	31
---------------	----

### 図版目次

第1図 重茂館遺跡群位置図 .....	2	第15図 遺構外出土土器2 .....	17
第2図 遺跡周辺地形図 .....	3	第16図 遺構外出土土器3 .....	18
第3図 周辺の遺跡分布図 .....	4	第17図 遺構外出土土器4 .....	19
第4図 調査区位置図 .....	5	第18図 遺構外出土土器5 .....	20
第5図 調査範囲図 .....	6	第19図 遺構外出土土器6 .....	21
第6図 調査区全体図 .....	7	第20図 遺構外出土土器7 .....	22
第7図 1号炉平面図・断面図 .....	9	第21図 遺構外出土土器8 .....	23
第8図 2号炉平面図・断面図 .....	10	第22図 遺構外出土土器9 .....	24
第9図 3号炉・4号炉平面図・断面図 .....	11	第23図 遺構外出土土器10 .....	25
第10図 1号埋設土器平面図・断面図 .....	12	第24図 遺構外出土土器11 .....	26
第11図 23号土坑平面図・断面図 .....	12	第25図 遺構外出土土器12 .....	27
第12図 2号炉出土土器 .....	14	第26図 遺構外出土石器1 .....	28
第13図 2号炉・1号埋設土器出土土器 .....	15	第27図 遺構外出土石器2 .....	29
第14図 遺構外出土土器1 .....	16	第28図 遺構外出土土製品・石製品 .....	30

### 写真図版目次

写真1 調査区近景1 .....	38	写真11 23号土坑完掘状況 .....	41
写真2 調査区近景2 .....	38	写真12 遺構内出土土器 .....	42
写真3 1号炉完掘状況 .....	39	写真13 遺構外出土土器1 .....	43
写真4 2号炉堆積状況 .....	39	写真14 遺構外出土土器2 .....	44
写真5 2号炉完掘状況 .....	39	写真15 遺構外出土土器3 .....	45
写真6 3号炉検出状況 .....	40	写真16 遺構外出土土器4 .....	46
写真7 3号炉完掘状況 .....	40	写真17 遺構外出土土器5 .....	47
写真8 4号炉完掘状況 .....	40	写真18 遺構外出土土器6 .....	48
写真9 1号埋設土器検出状況 .....	41	写真19 遺構外出土土器、石器、 土製品、石製品 .....	49
写真10 1号埋設土器完掘状況 .....	41		

# 1 調査経過

## (1) 調査に至る経過

重茂館遺跡群第5次調査は宮古市重茂地区重茂において実施された民間開発事業に伴う緊急の発掘調査である。宮古市教育委員会（以下、市教委）は平成27年11月、当該開発事業が埋蔵文化財に関する事前協議なく実施されていることを知ることとなり、早急に埋蔵文化財に関する協議が必要である旨を開発主体者である重茂漁業協同組合に伝えた。協議の結果、当該事業においては年度内に完了しなければならないことから、早急に調査体制を調整して調査を実施することとなり、発掘調査を12月1日から実施した。

市教委には重茂漁業協同組合から平成27年11月30日付けで文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘届出書が提出され、市教委は同日付けで岩手県教育委員会に進達している。これに対し、岩手県教育委員会からは重茂漁業協同組合に発掘調査を行う旨の通知があり、市教委は重茂漁業協同組合に伝達している。また、市教委は12月9日付けで文化財保護法第99条第1項の規定により当該埋蔵文化財発掘調査の実施を報告している。なお、今回の遺跡内における無届工事着手においては12月28日付けで岩手県教育委員会から重茂漁業協同組合に「周知の埋蔵文化財包蔵地重茂館遺跡群での無届工事着手について」が通知されている。

調査の実施にあたっては、11月30日付けで「埋蔵文化財の取り扱いに関する協定書」を宮古市と重茂漁業協同組合との間で取り交わし、調査委託、調査費の負担、埋蔵文化財の取り扱い等の協定を結んでいる。これに基づき両者は調査費に関する「埋蔵文化財調査委託契約書」を締結し、宮古市の受託事業として調査の着手に至ったものである。

## (2) 調査概要

発掘調査地点	宮古市重茂第1地割59-4、59-6
調査原因	給油所の建設
発掘調査面積	235㎡
発掘調査期間	平成27年12月1日～12月15日
資料整理期間	平成28年5月9日～平成29年3月17日

## (3) 調査体制

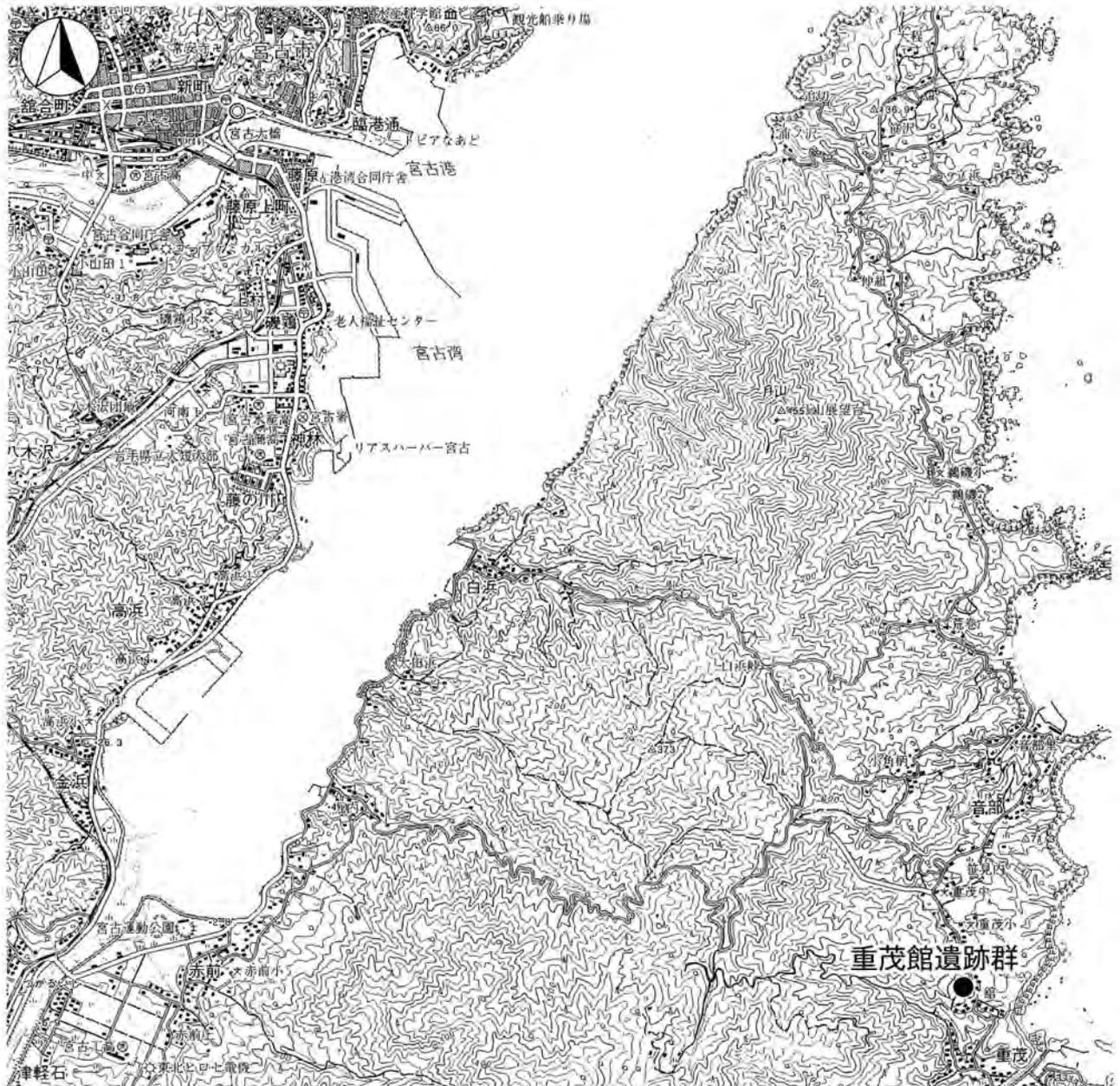
調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二
調査統括	高橋憲太郎	宮古市教育委員会	文化課長
事務担当	鎌田祐二	〃	文化課担当長（平成27年度）
		〃	文化課埋蔵文化財センター所長（平成28年度）
調査員	布谷義彦	〃	文化課主任文化財調査員（平成27年度）
	伊藤正人	〃	文化課主任文化財調査員（平成28年度）
	安原 誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主任文化財調査員（平成27年度）
	江口邦泰	〃	文化課主任文化財調査員
	千葉剛史	〃	文化課文化財調査員（平成27年度）

阿部 豊	ク	文化課埋蔵文化財発掘調査員
前川友宏	ク	文化課埋蔵文化財調査員
赤沼みちる	ク	文化課埋蔵文化財調査員

発掘調査作業員 石崎衛司 伊藤勝夫 扇田正義 大下義文 木村洋一 小松義一 坂下勝吉  
 坂本 晃 佐々木孝一 佐々木剛 佐々木壽郎 佐々木信晴 佐々木則義  
 佐藤重信 澤田榮夫 鈴木祥一 鈴木正広 舘崎禮子 鳥取光己 中沢美智子  
 長洞吉伸 平井巨介 三浦 功 三河義郎 山口忠夫 山根清美 山根保行  
 資料整理作業員 伊藤勝夫 小林功行 佐々木亨 長洞吉伸

#### (4) 宮古市の位置と環境 (第1図、第2図)

岩手県宮古市は三陸沿岸中部に位置し、北は岩泉町、西は盛岡市に隣接している。市の東端部に位置する鮎ヶ崎は本州最東端として知られている。平成17年には旧宮古市、旧田老町、旧新里村が



第1図 重茂館遺跡群位置図 (S= 1 : 50,000)

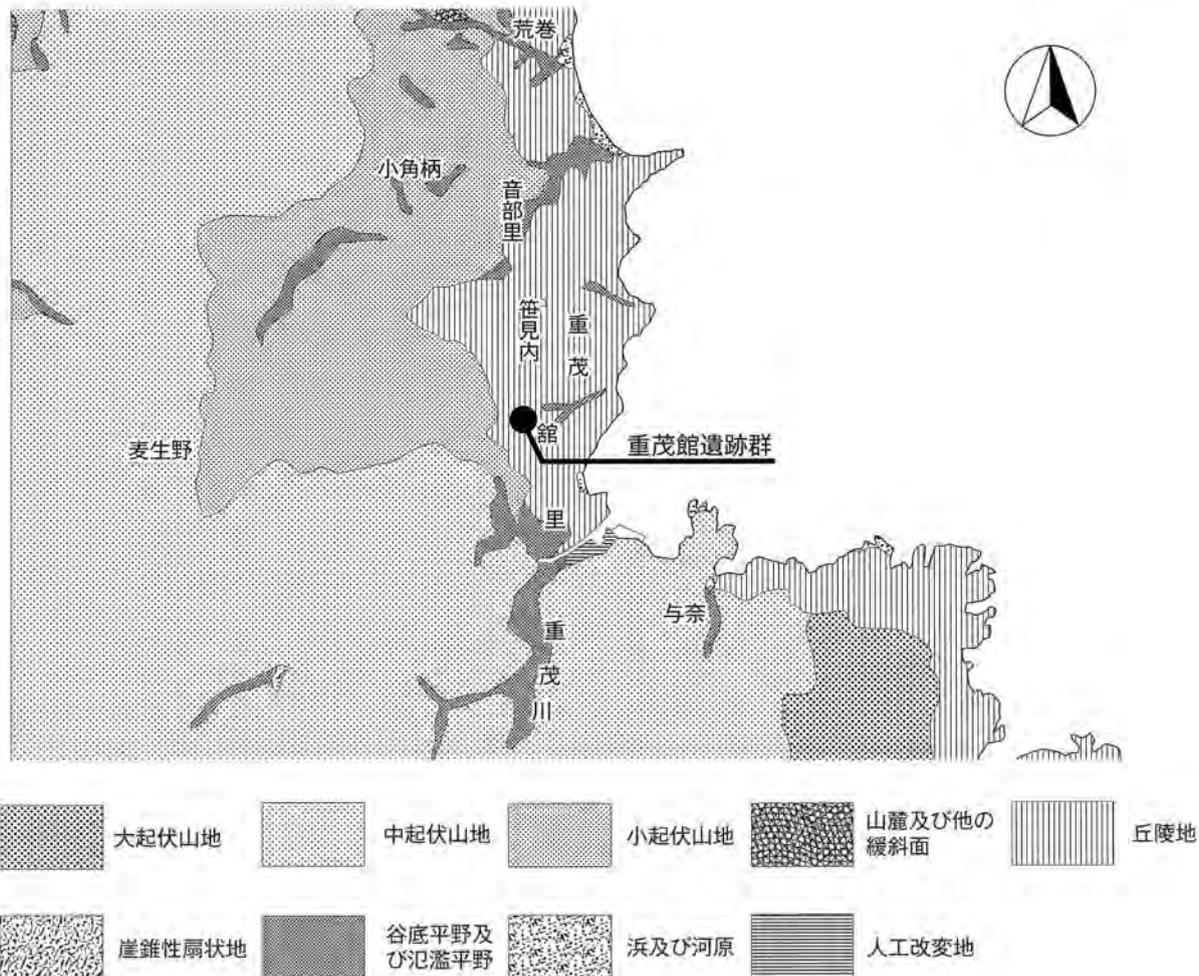
合併し、平成 22 年には旧川井村が編入している。平成 23 年 3 月には東日本大震災大津波で甚大な被害を受け、現在は復興事業がすすめられている。

宮古市の沿岸部は隆起海岸が続き、海食により形成された自然景観は観光地として優れ、浄土ヶ浜は国の名勝に、三王岩は県の天然記念物に指定されている。市内を流れる河川は市の中央部を流れる閉伊川、宮古湾最奥部へ流れる津軽石川などがあり、河川流域の樹枝状に開析された丘陵地には数多くの遺跡が立地している。市内の地形は山地と丘陵地で占められている。山地は川井地区では標高 1,000 m 級の大起伏山地が広がっているものの、山地帯の多くは重茂半島にある月山 (455 m) や十二神山 (731 m) を代表する小起伏山地からなる。丘陵地は閉伊川流域の千徳丘陵や八木沢丘陵、津軽石川流域の豊間根丘陵、隆起海岸により形成され小河川が流れて開析された小本丘陵などがある。小本丘陵は市の北部に位置し、国の史跡である崎山貝塚を代表とする大中規模の遺跡が多数所在している。

### (5) 重茂館遺跡群と周辺の遺跡 (第3図)

宮古市重茂地区に所在する重茂館遺跡群は鮎ヶ崎丘陵上に位置する遺跡で、主に縄文時代、古代の集落跡と中世の城館跡からなる遺跡の総称である。『宮古市遺跡分布調査報告書 1』によると、4ヶ所の遺跡が密集しており、各遺跡の範囲を確定し得ないことが呼称の理由とされている。

重茂館遺跡群はこれまで 2 次の発掘調査が報告されている。第 1 次調査は当調査の東隣接地で行



第 2 図 遺跡周辺地形図 (S= 1 : 50,000)

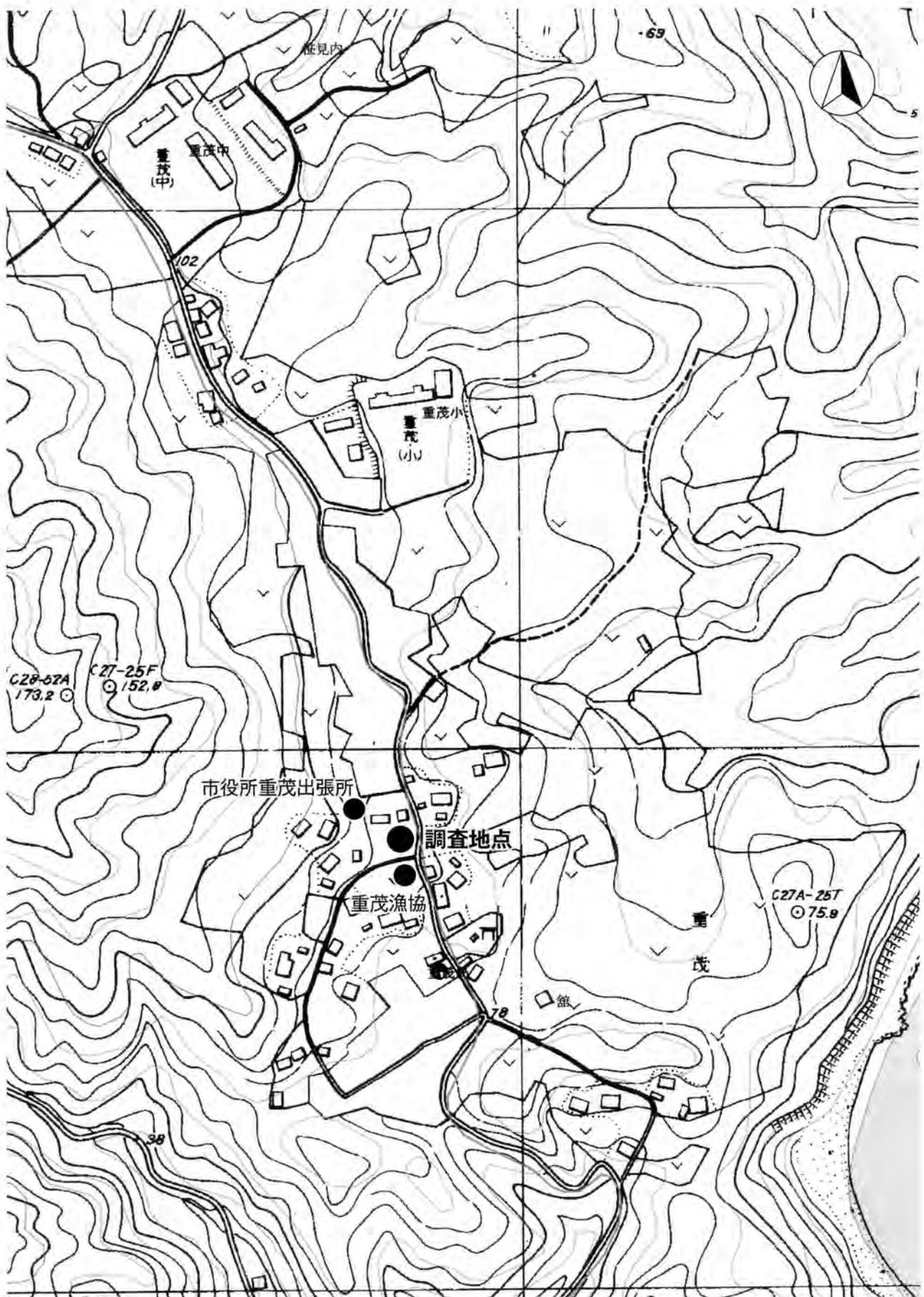
われ、縄文時代中期大木7a～8b式の土器が多数出土している。第2次調査は重茂小学校新校舎建築に伴い実施され、縄文時代早期末葉の遺物包含層が確認されている。

この他、当遺跡は中世の城館跡の重茂館が含まれている。調査経歴はないが、田村忠博著『宮古中世史 古城物語』によれば、遺跡の南東部にある平坦地において、空堀と郭、砦からなる山城が確認されている。また当地区名が「館」と表記されることから城館跡の存在を窺い知ることができる。館主は重茂氏とされるが、創建時期を含め不明な点が多い。

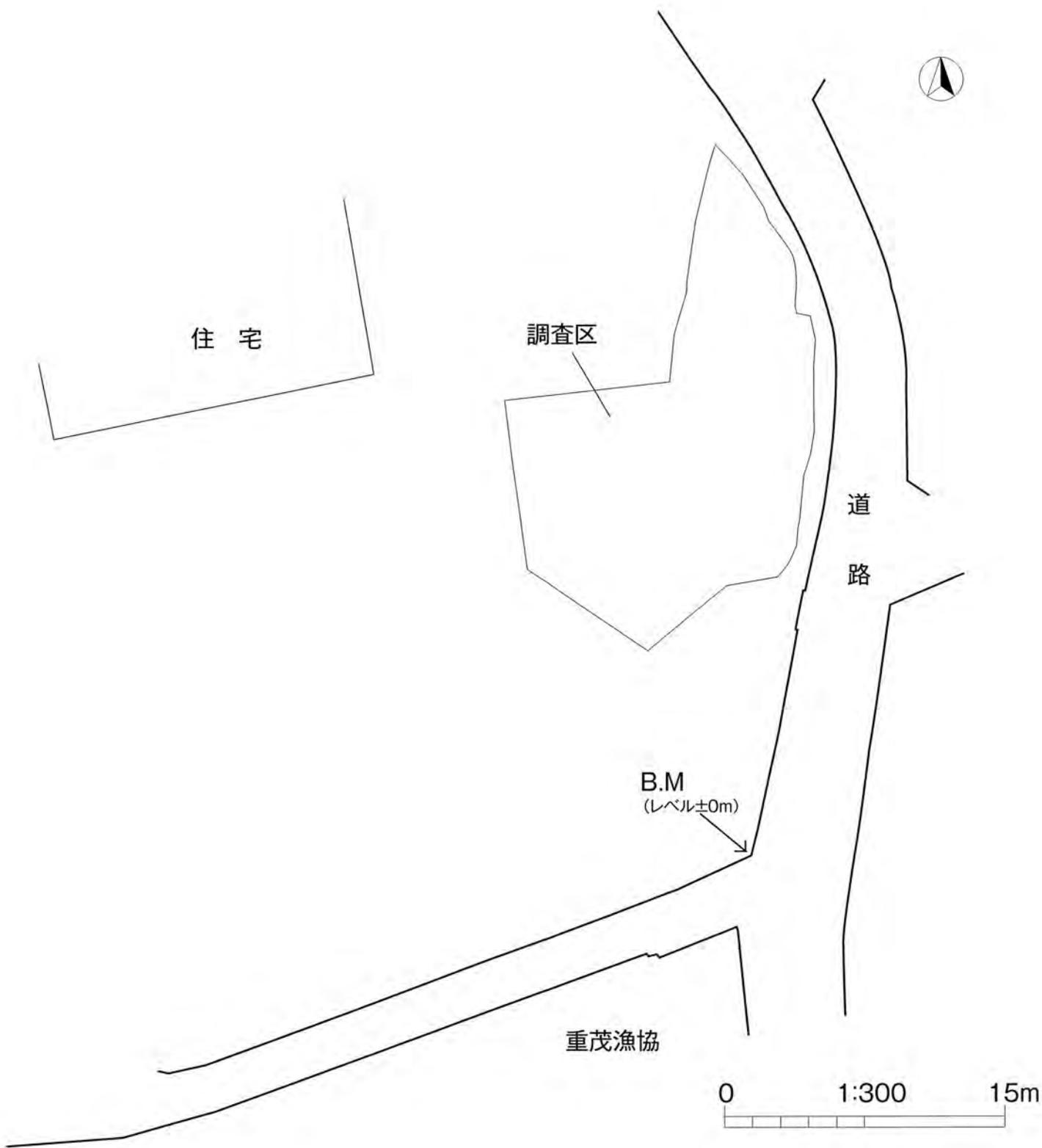
最後に鮎ヶ崎丘陵上に立地する周辺の遺跡に目を向けると、14の遺跡が確認されている。縄文時代前期～後期の遺物が採集されているが、調査経歴が無いため、現在のところ詳細は分かっていない。



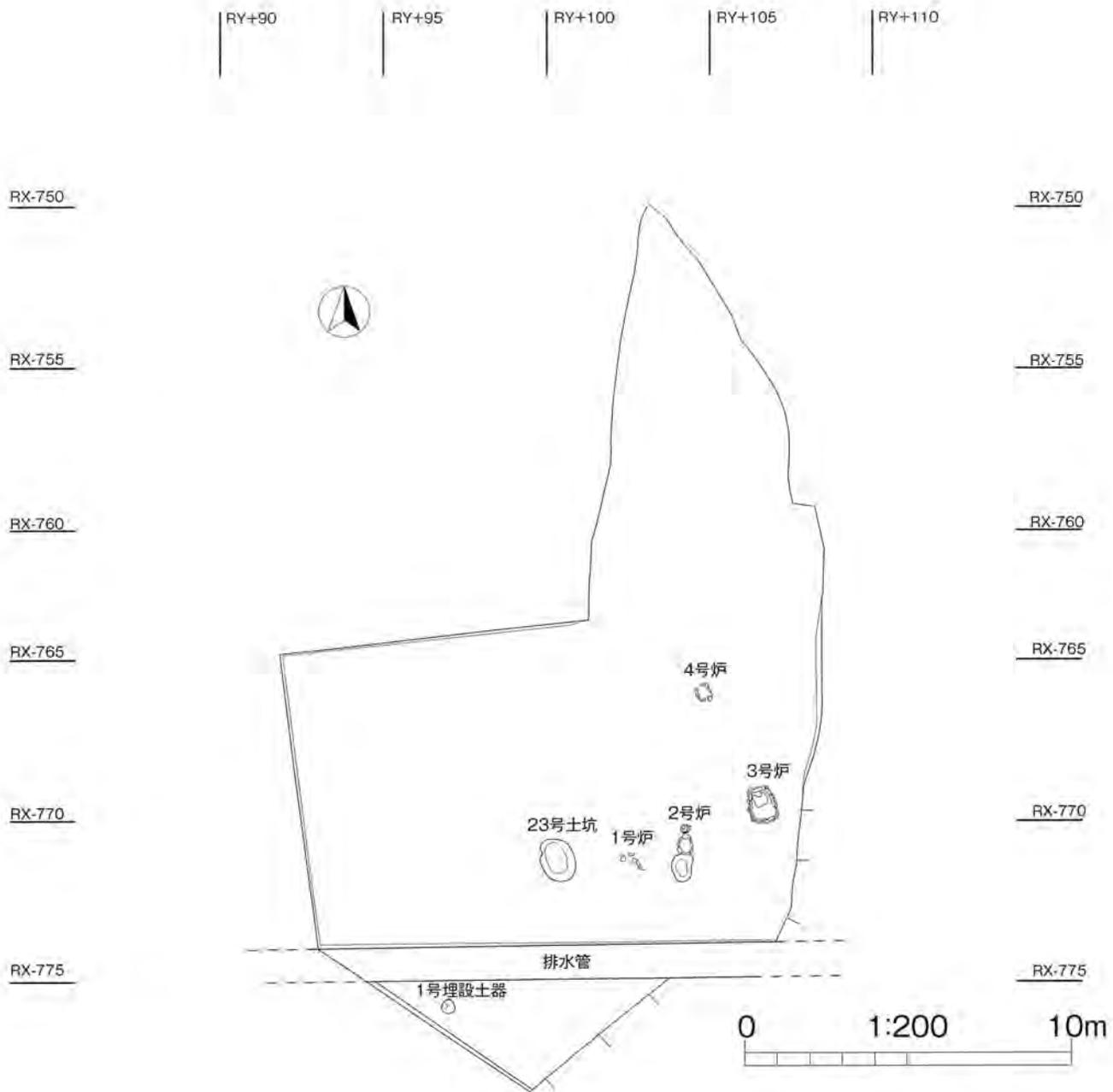
第3図 周辺の遺跡分布図 (S= 1 : 25,000)



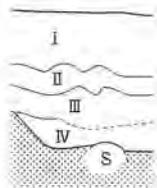
第4図 調査区位置図 (S= 1 : 2,500)



第5図 調査範囲図



北壁 柱状図



層	基本土		混入土	粘性・しまり混入物
	I	10YR4/1CL(埴壤土)	10YR6/3~6/4CL(埴壤土)	径2~5mm粒状 3%
II	10YR3/1CL(埴壤土)	10YR6/2CL(埴壤土)	径2~10mm粒状 1%	粘質、疎
III	10YR5/2CL(埴壤土)	10YR6/3~6/4CL(埴壤土)	径2~5mm粒状 1%	粘質、疎
IV	10YR5/3CL(埴壤土)	10YR4/1CL(埴壤土)	径2~10mm粒状 1%	粘質、疎

第6図 調査区全体図

## 2 調査内容

### (1) 基本土層 (第4図、第5図 写真1、2)

調査地区は重茂漁業協同組合の北隣接地に位置し、やや平坦な台地上に立地する。標高は約 80 m である。基本土層はⅠ～Ⅳ層に大別される。そのうち遺物包含層はⅡ～Ⅳ層である。

Ⅰ層 表土層で褐灰色を帯びる。層厚は 30cm 前後である。

Ⅱ層 黒色土層で層厚は 10cm 前後である。調査区全域に広がっている。縄文時代中期～晩期の遺物が混在している。

Ⅲ層 灰黄褐色土層で層厚は 30cm 前後である。遺物包含層の中では最も多く遺物が出土している。出土した遺物は縄文時代中期大木 7a 式～8 b 式の土器が多いが、基本土層Ⅱ層と同様に縄文時代後・晩期の遺物も出土している。後述する炉跡は基本土層Ⅲ層の下から確認された。

Ⅳ層 におい黄褐色土層で層厚は 20cm 前後である。深掘りトレンチから確認された土層で、縄文時代中期大木 7a 式の土器が出土している。

### (2) 遺構と遺物

本調査で検出された遺構は炉跡 4 基、埋設土器 1 基、土坑 1 基である。炉跡については竪穴住居跡に伴うと考えられるが、竪穴住居跡のプランは確認できなかった。

#### 1号炉 (第7図 写真3)

**概要** 調査区東部、2号炉の西 60cm の位置で検出された。大小 5 点の礫が集中し、石囲炉を構成している。一部の礫は抜かれていたため、規模は不明であるが、残存部分における最大長は 80cm を測る。石囲炉内において掘り込みは確認されなかった。

**時期** 時期を特定できる遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

#### 2号炉 (第8図、第12図、第13図 写真4、5、12)

**概要** 調査区東部、1号炉の西 60cm の位置で検出された。埋設土器、石囲炉、前庭部からなる複式炉を構成している。複式炉長軸の磁北方向は南北である。埋設土器は逆位で埋められている。石囲炉は扁平な 9 点の礫を楕円状に配している。規模は長軸 61cm、短軸 48cm、深さ 10cm を測る。前庭部は不整楕円形を呈し、長軸 86cm、短軸 60cm、深さ 9cm を測る。焼土は確認されなかった。

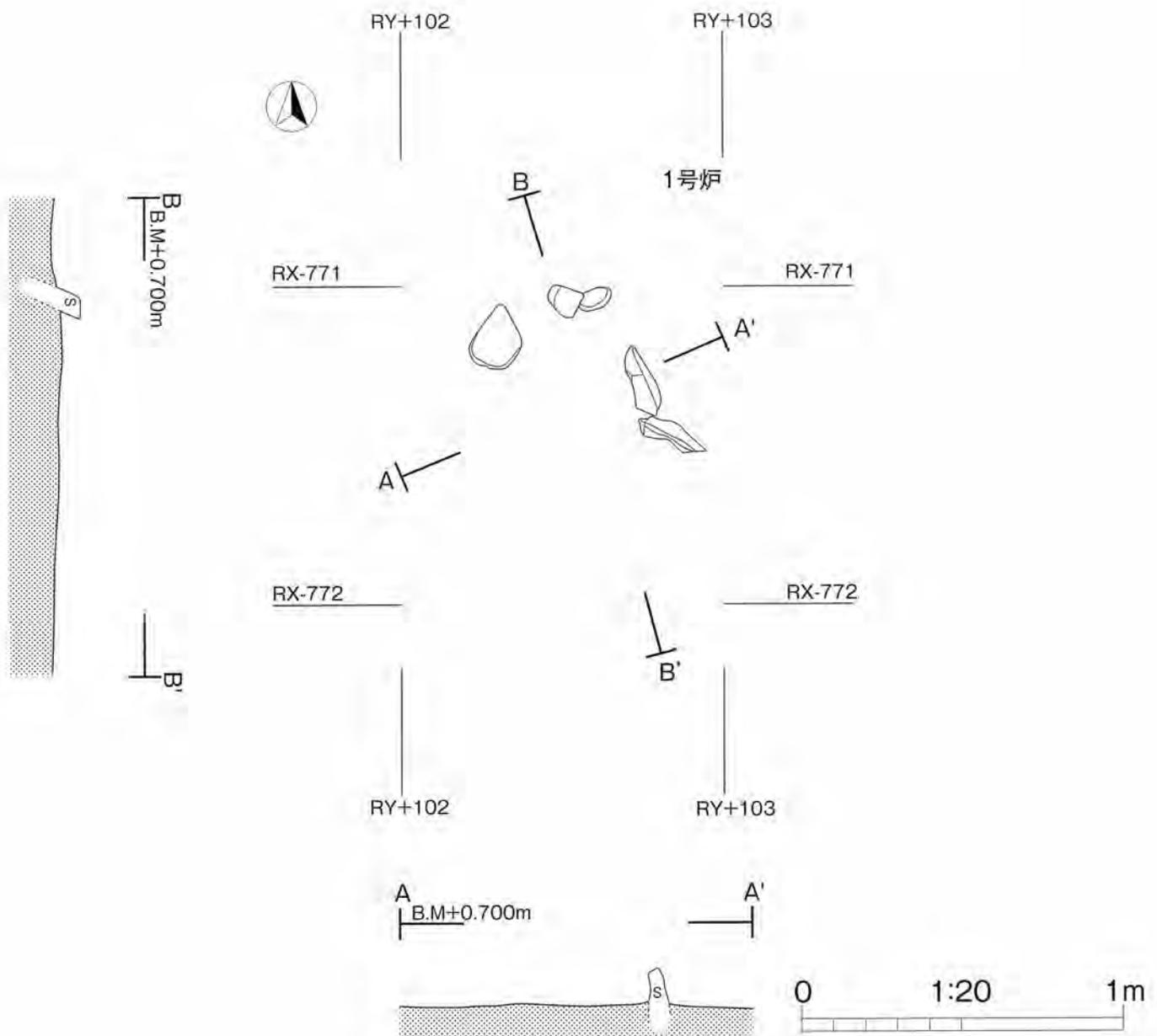
**埋土** 埋設土器内は単層で、褐灰色土を基本土とし、におい黄橙色土を混入土とする。石囲炉内は単層で、褐灰色土を基本土とし、におい黄橙色土を混入土とする。前庭部内は単層で、暗褐色土を基本土とし、カーボンを少量含む。3層ともに粘質がやや強い。

**時期** 埋設土器は大木 8 b 式の深鉢形土器である。埋設土器から時期は大木 8 b 式期である。

#### 3号炉 (第9図、写真6、7)

**概要** 調査区東部、2号炉の北東 1 m の位置で検出された。26 点の礫を密に埋め込み、不整長方形に配した石囲炉を構成している。礫には円礫が含まれているが、使用痕は見られなかった。石囲炉長軸の磁北方向は北西-南東である。規模は長軸が 112cm、短軸が 86cm、深さ 14cm を測る。炉内には焼土が確認され、炉の北側に集中している。また、石囲炉の東側の礫が特に被熱している。なお、石囲炉に付帯すると思われる掘り込みは確認されなかった。

**埋土** 3層に分層され自然堆積である。1層は黒褐色土を基本土とし、焼土である明赤褐色土を混入土とする。2層は暗褐色土を基本土とし、地山に相当する黄褐色土を混入土とする。3層は炉内



第7図 1号炉平面図・断面図

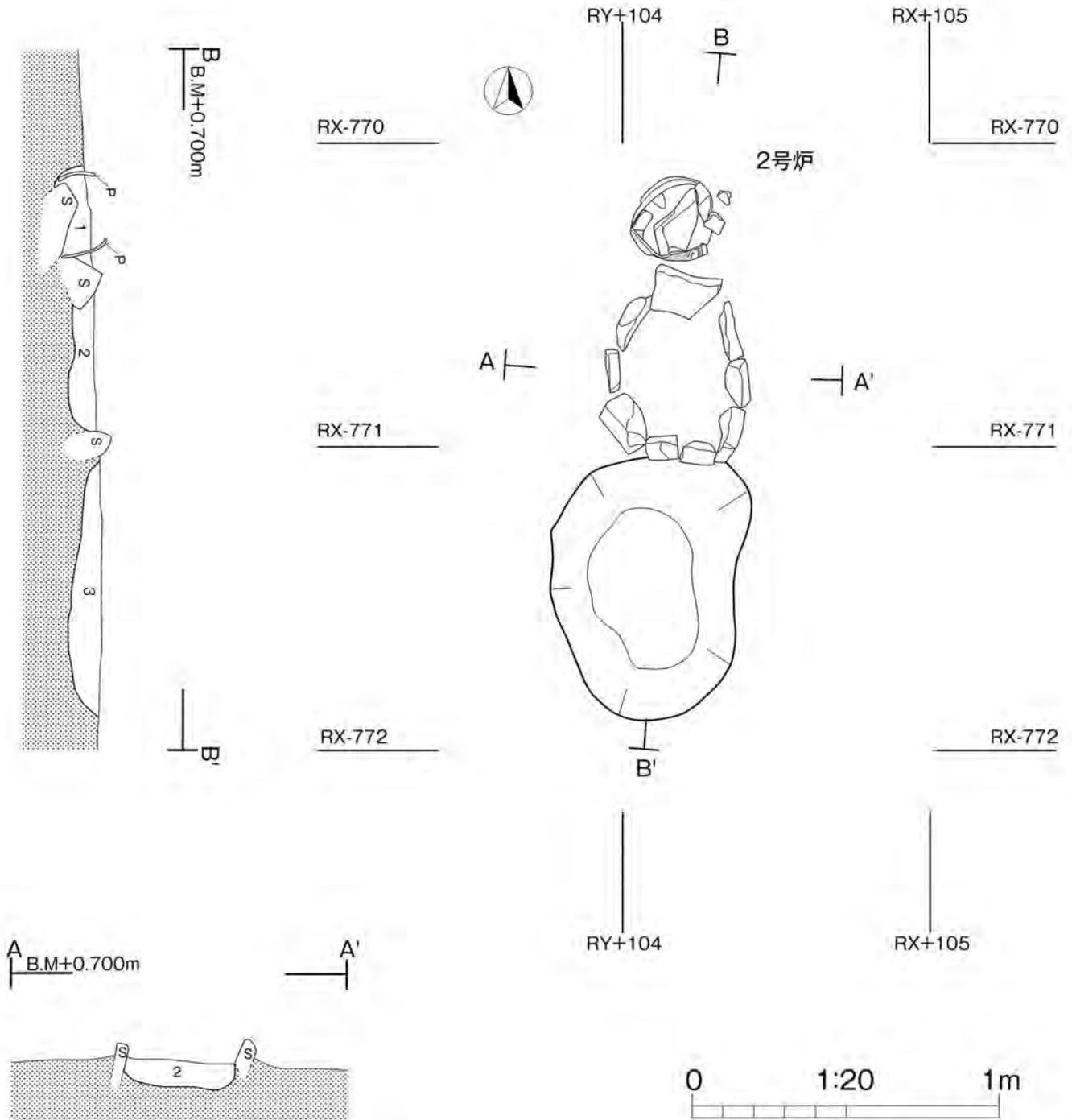
の外周に堆積し、暗褐色土を基本土とする。いずれも粘質が強い。

**時期** 時期を特定できる遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

#### 4号炉（第9図、写真8）

**概要** 調査区東部、3号炉の北2mの位置で検出された。11点の礫を長方形に配した石囲炉を構成している。礫には円礫が含まれているが、使用痕は見られなかった。石囲炉長軸の磁北方向は北西-南東である。規模は長軸が54cm、短軸が48cm、深さ6cmを測る。なお、石囲炉に付帯すると思われる掘り込みは確認されなかった。

**埋土** 2層に分層された。1層は黒褐色土を基本土とし、明赤褐色の焼土が混入している。2層は暗褐色土を基本土とし、地山に相当する黄褐色土を混入土とする。



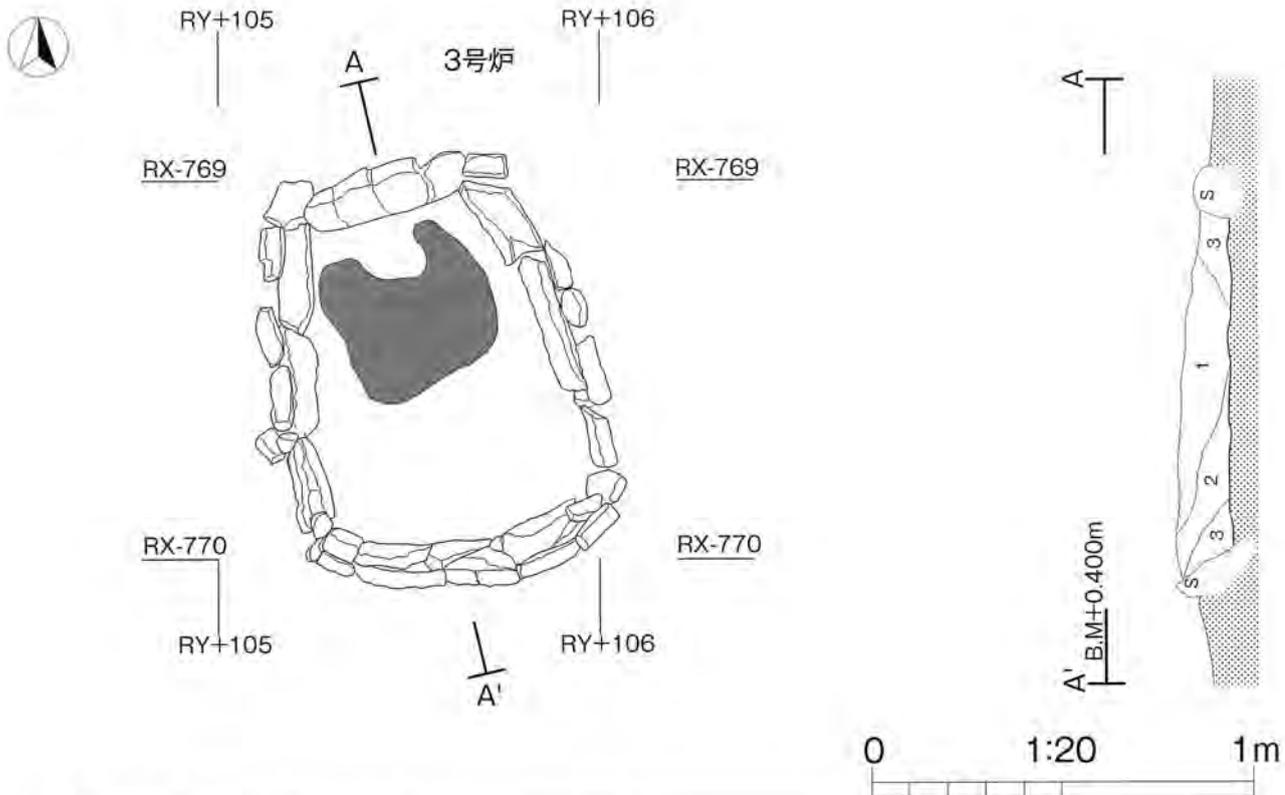
	層	基本土	混入土	粘性・しまり混入物
2号炉	1	10YR4/1CL (埴壤土)	10YR6/3CL (埴壤土)	径2~5mm粒状3%
	2	10YR5/1CL (埴壤土)	10YR6/3CL (埴壤土)	径2~5mm粒状1%
	3	10YR3/3CL (埴壤土)		径3mm大のカーボン1%含む

第8図 2号炉平面図・断面図

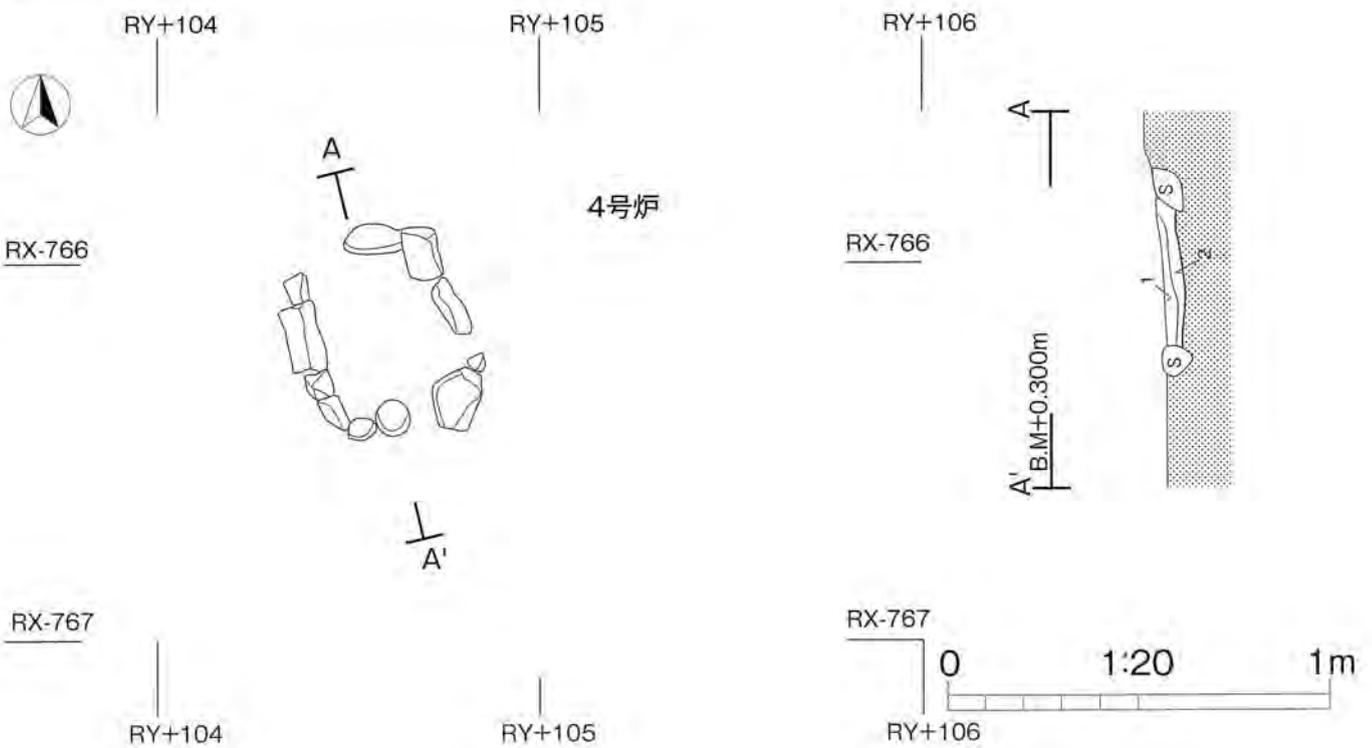
**時期** 時期を特定できる遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

**1号埋設土器 (第10図、第13図、写真9、10、12)**

**概要** 調査区南西部、調査区壁付近で検出された。胴部から底部まで残存している縄文土器が東に傾けて埋設されている。掘り方の形状は不整円形、規模は長軸42cm、深さ25cmを測る。

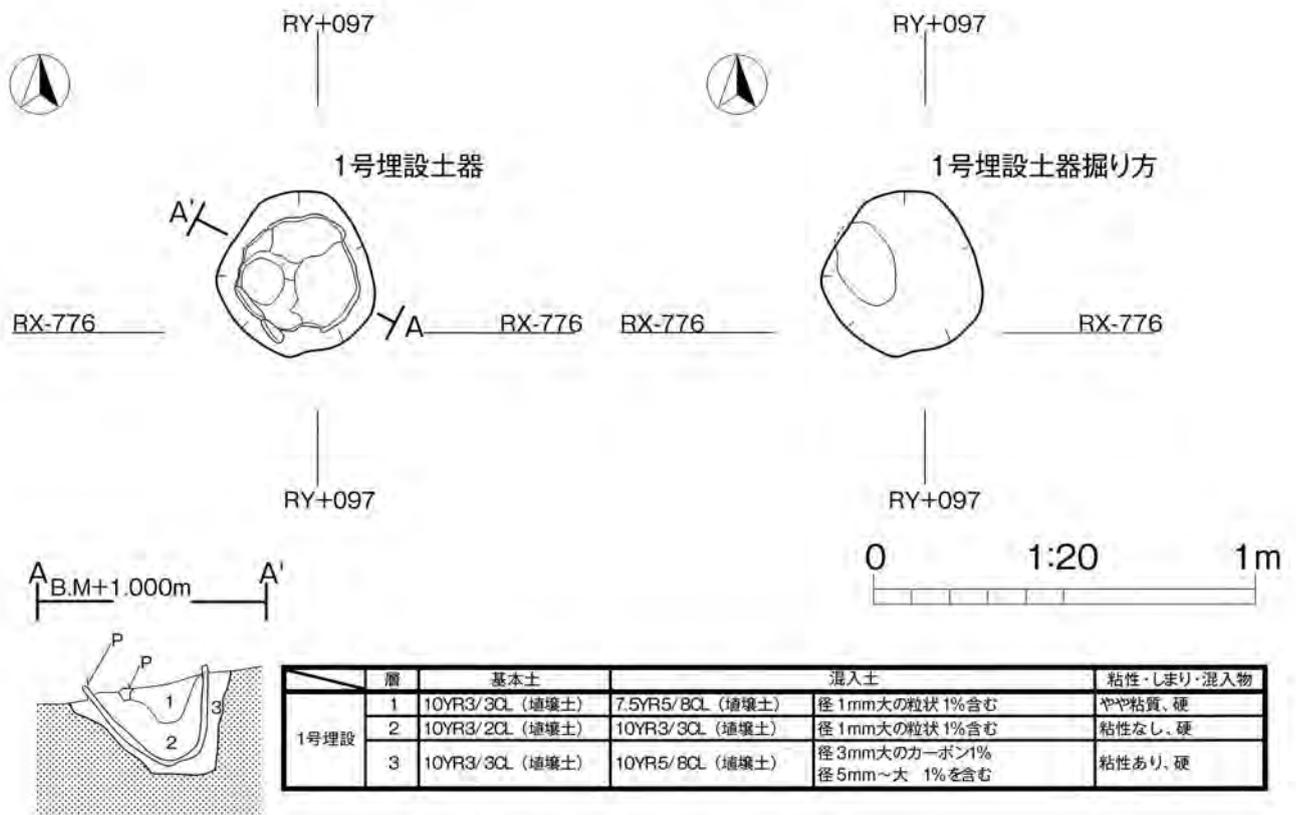


	層	基本土	混入土	粘性・しまり・混入物
3号炉	1	10YR2/3CL (埴壤土)	2.5YR5/6CL (埴壤土) 径 1~5cm大のカーボン 径 1~2cm大 5%	粘性あり、硬
	2	10YR3/4CL (埴壤土)	10YR5/8CL (埴壤土) 径 1~大 7% 径 5mmカーボン2%	粘性あり、硬
	3	10YR3/3CL (埴壤土)	混入土なし 径 1mm~大のカーボン1%含む	粘性あり・疎

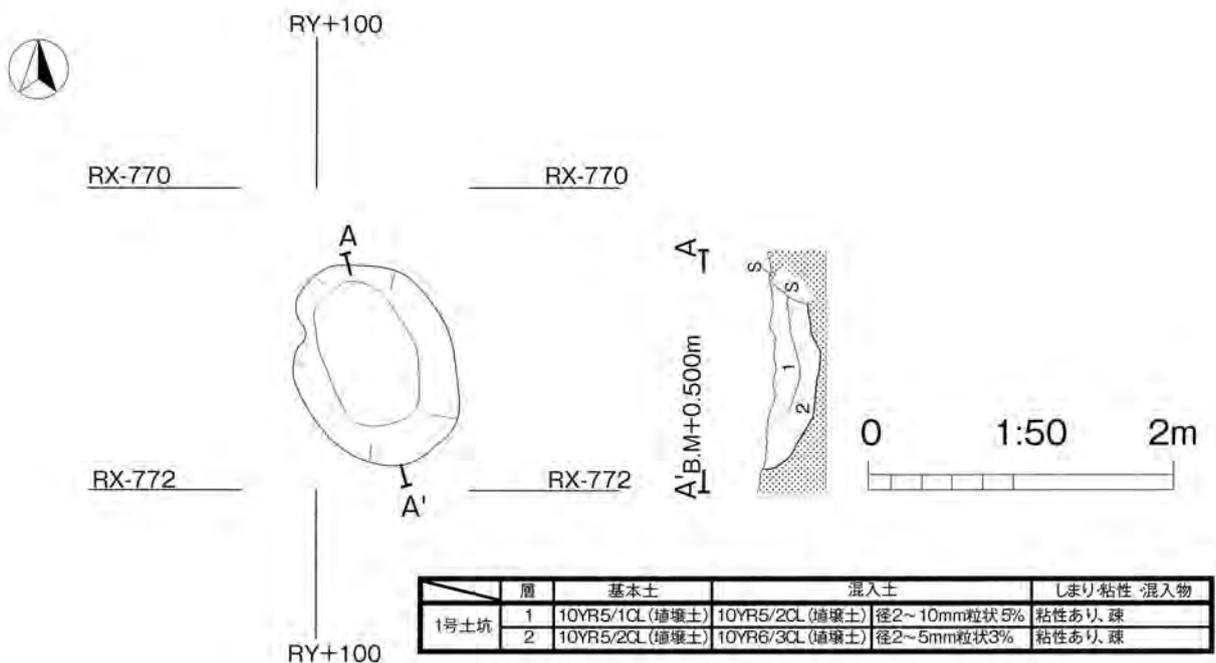


	層	基本土	混入土	粘性・しまり・混入物
4号炉	1	10YR3/3CL (埴壤土)	7.5YR3/4CL (埴壤土) 20%塊状、炭化物多量	粘質あり、硬
	2	5YR2/3CL (埴壤土)	5YR2/3CL (埴壤土) 5%塊状、焼土粒少量、やや紫色を呈する	粘質あり、硬

第9図 3号炉・4号炉平面図・断面図



第10図 1号埋設土器平面図・断面図



第11図 23号土坑平面図・断面図

埋土 3層に分層された。1層は暗褐色土を基本土とし、地山に相当する黄褐色土を混入土とする。2層は黒褐色土を基本土とし、暗褐色土を混入土とする。3層は掘り方内の埋土である。暗褐色土を基本土とし、地山に相当する黄褐色土を混入土とする。1層、3層は粘質が強いが2層は粘質が

弱い。

**時期** 埋設された土器は縦位の結節縄文が施文された土器である。出土遺物から概ね縄文中期の所産と考えられる。

### 23号 (SK-23) 土坑 (第 11 図、写真 11)

**概要** 調査区中央部、1号炉の西3mの位置で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸が29cm、短軸が22cm、深さ30cmを測る。

**埋土** 2層に分層された。1層は褐灰色土を基本土とし、灰黄褐色土を混入土とする。2層は灰黄褐色土を基本土とし、にぶい黄橙色土を混入土とする。いずれも粘質が強い。

**時期** 時期を特定できる遺物は出土しなかったため、時期は不明である。

### 遺構外出土遺物 (第 14 図～第 28 図、写真 13～19)

出土した遺物は約8,000点を数える。遺構外出土遺物は埋設土器、2号炉の床面直上遺物を除いたもの全てを含んでいる。遺物は縄文土器、石器、土製品、石製品からなる。なお、遺物の詳細については第1表の遺物観察表で記載している。

#### 縄文土器 (第 14 図～第 25 図)

##### 第Ⅰ群土器 (1～3)

縄文時代前期のものである。出土数は極めて少ない。

##### 第Ⅱ群土器 (4～172)

縄文時代中期のものである。大木7a、7b式のを1類、8a、8b式を2類、9、10式を3類とした。出土量は1類、2類が主体である。

##### 第Ⅲ群土器 (173～193)

縄文時代後期、晩期のものである。出土量は少ない。後期のものを1類、晩期のものを2類とした。

##### 第Ⅳ群土器 (194～234)

縄文、撚糸文を施している土器を一括した。時代は縄文時代前期から晩期のものである。

##### 第Ⅴ群土器 (235～251)

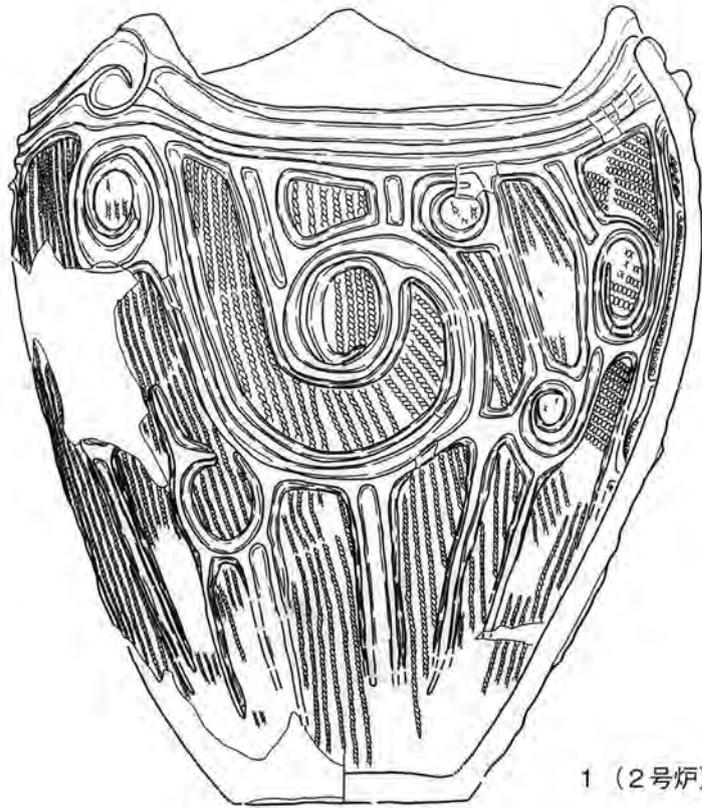
第Ⅰ群～Ⅳ群土器に属さないものと底部破片を一括した。

#### 石器 (第 26 図、第 27 図)

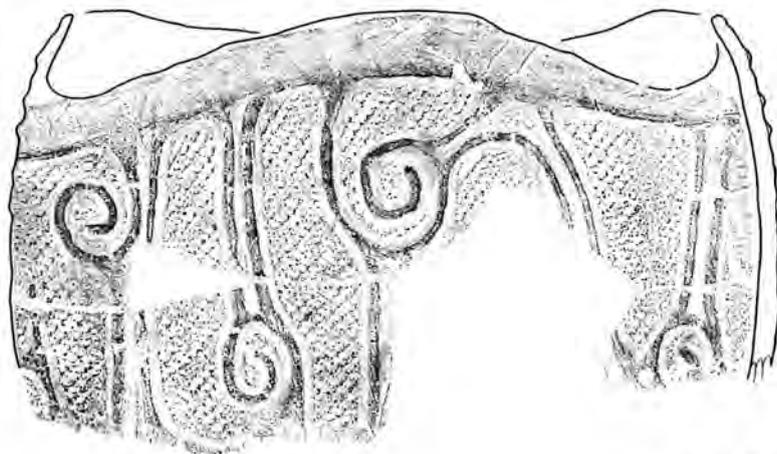
第26図は剥片石器で、石匙(252～254)、石鏃(255)である。第27図は礫石器で、磨製石斧(256)、磨石(257～261)からなる。

#### 土製品・石製品 (第 28 図)

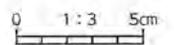
262は土製円盤である。大木8b式の土器破片を転用している。263は破片のため不明であるが、斧形土製品の先端部と思われる。264は土器の底部と思われるが、輪積痕が明瞭ではないため、土製品として扱った。265は土偶である。部位は左の脚部で、上部は湾曲している。縄文時代後期前葉に見られる土偶であろう。266は石製円盤である。石材は花崗岩と思われる。側縁部に調整痕が残されている。267は石棒である。基部は全面にわたり調整痕が残り、体部の一面において長軸12.5cm、短軸2.4cmを測る縦長の窪みが見られる。



1 (2号炉)



2 (2号炉埋設土器)



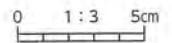
第12图 2号炉出土土器



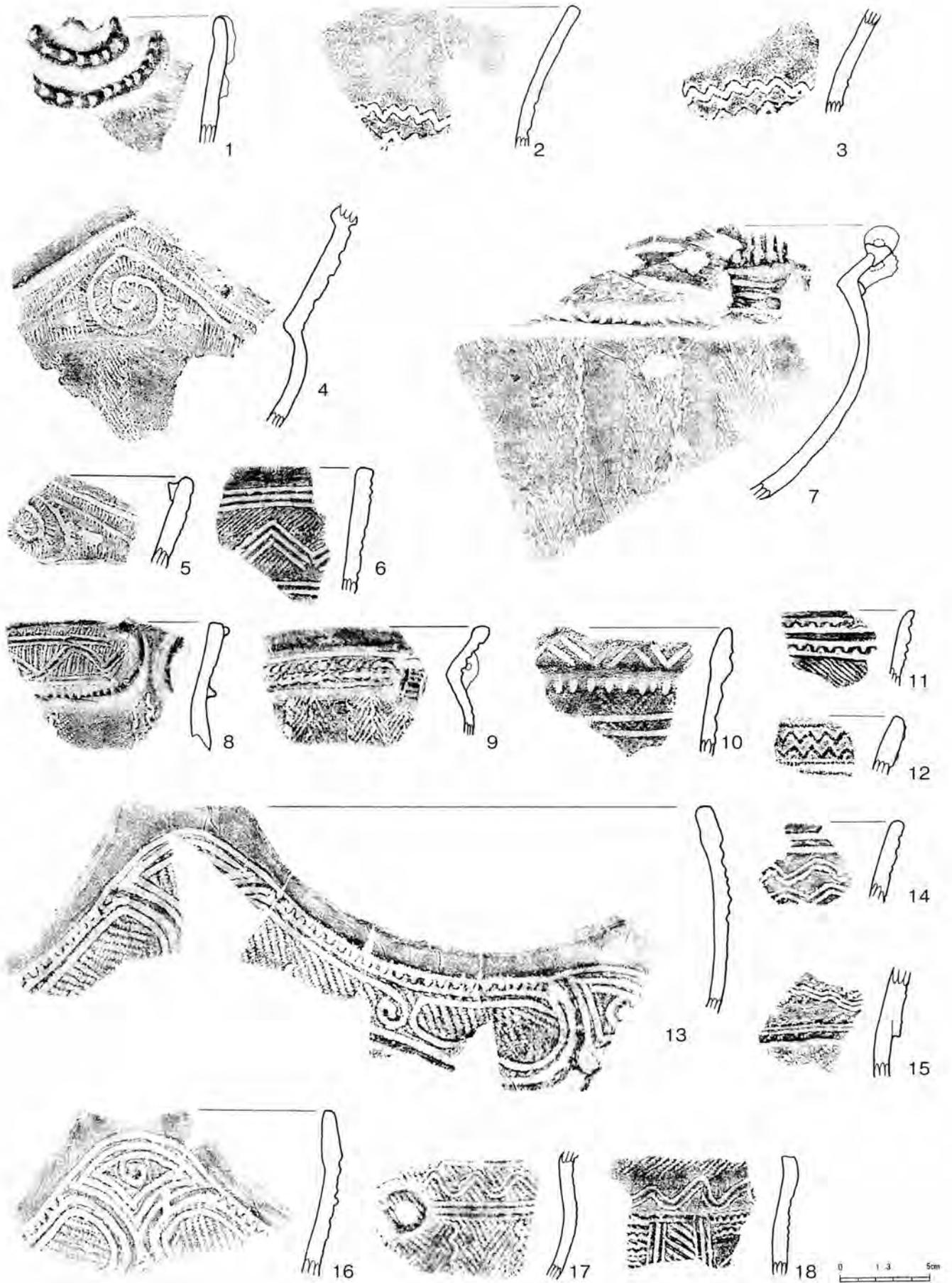
1 (2号炉埋設土器)



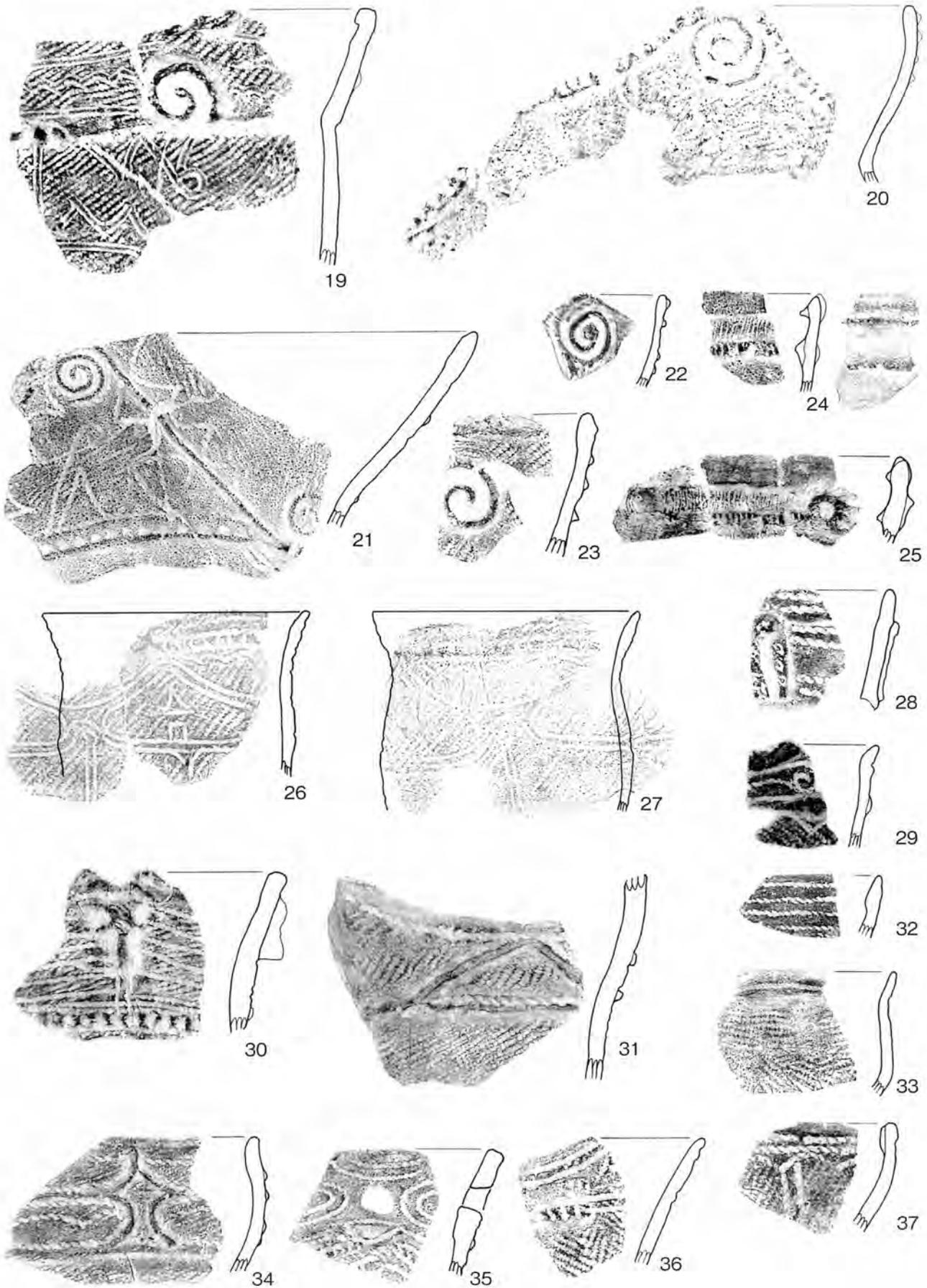
2 (1号埋設土器)



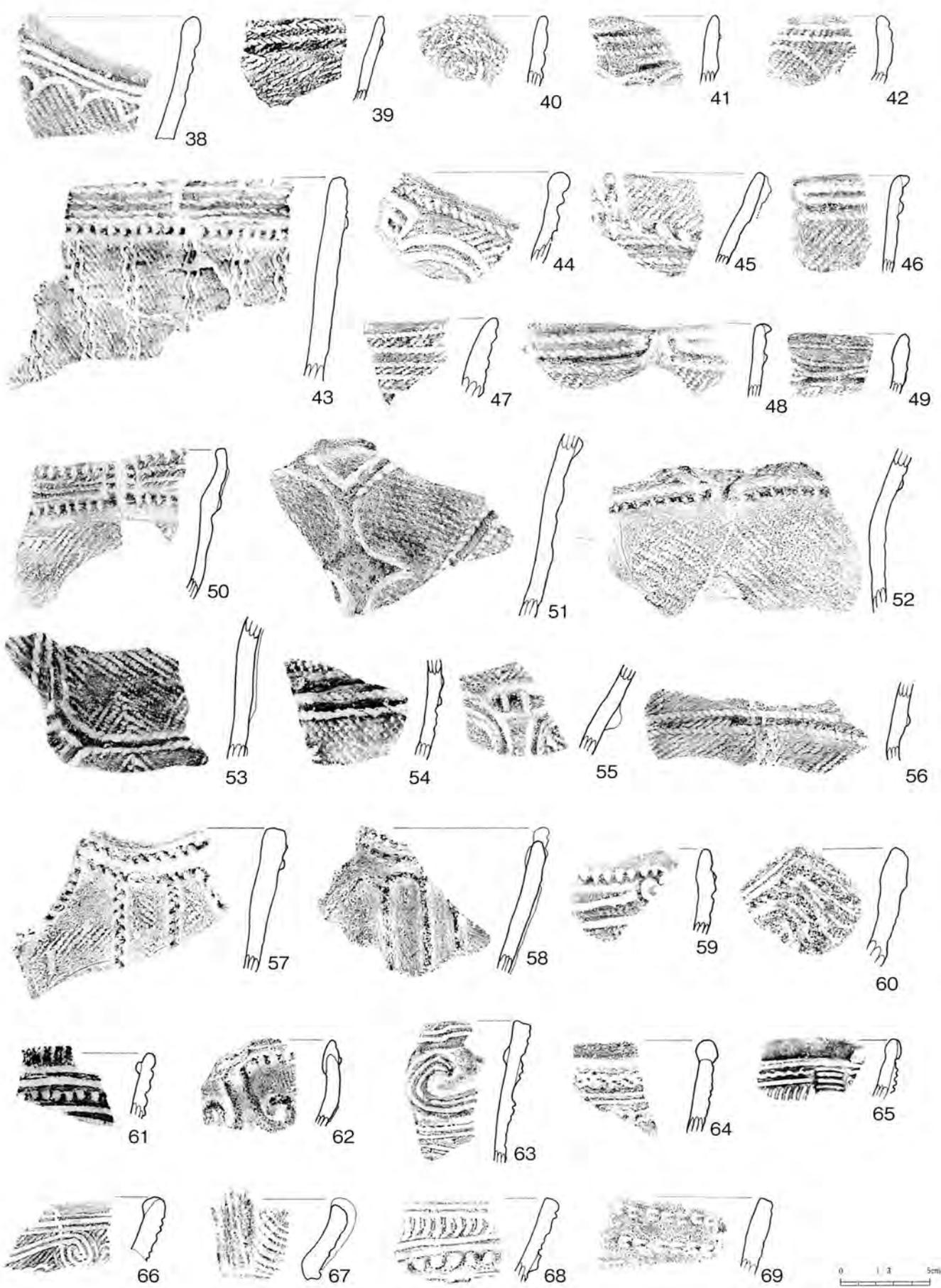
第13图 2号炉・1号埋設土器出土土器



第 14 図 遺構外出土土器 1



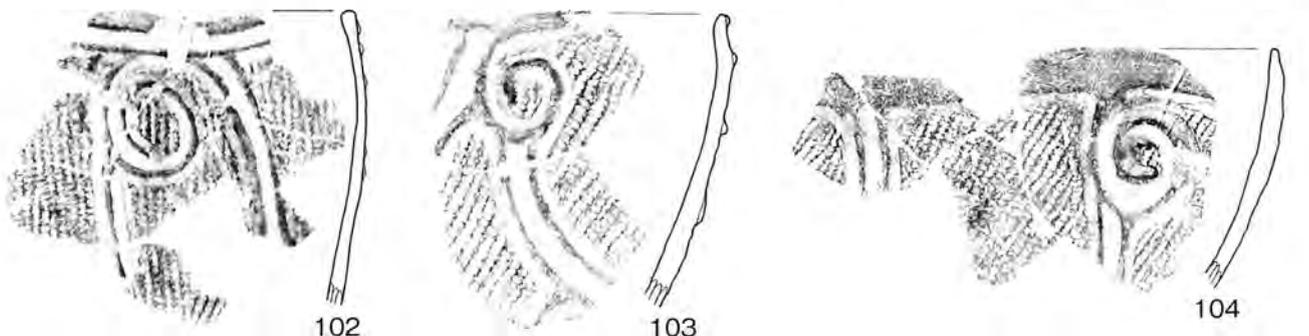
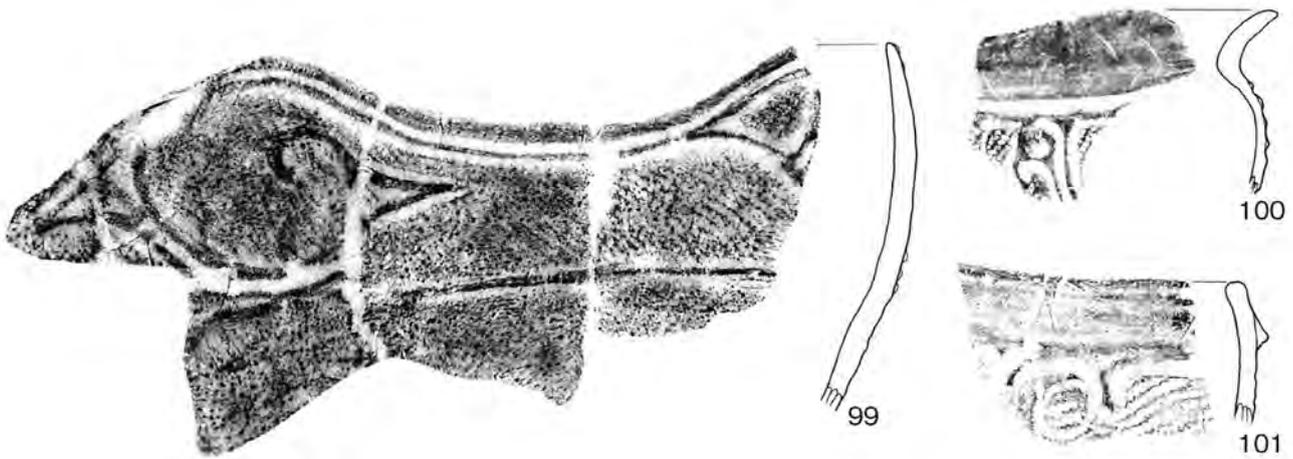
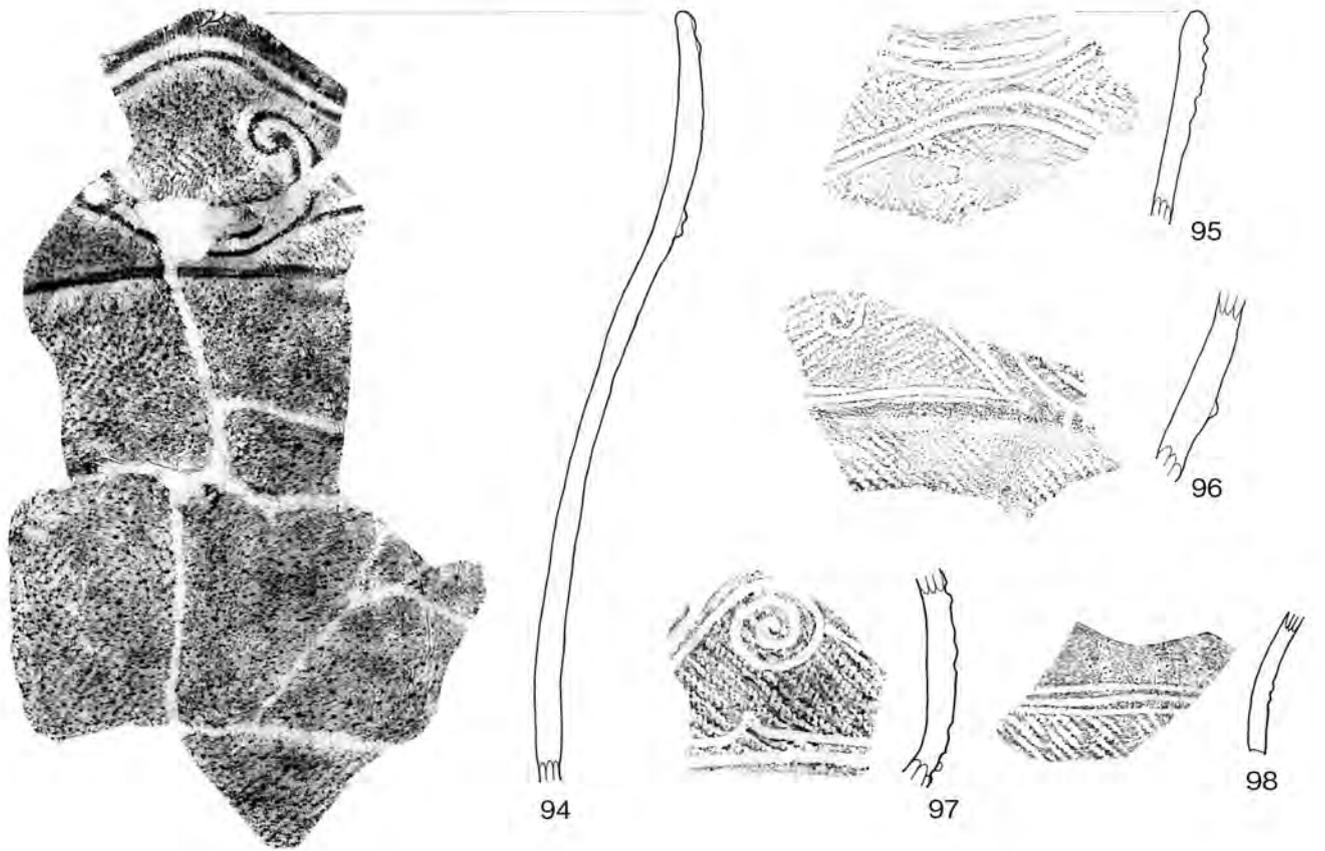
第 15 図 遺構外出土器 2



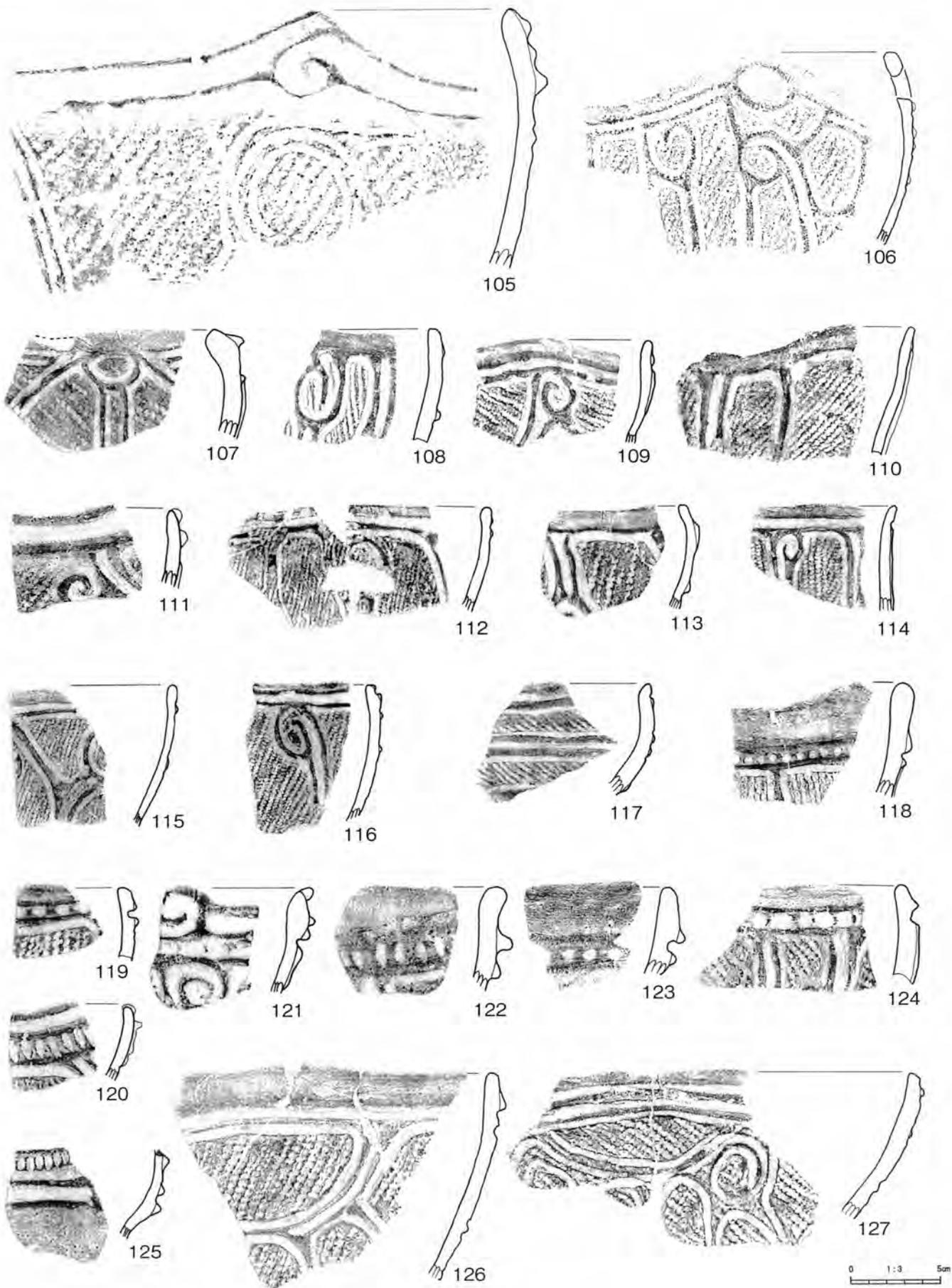
第16図 遺構外出土土器3



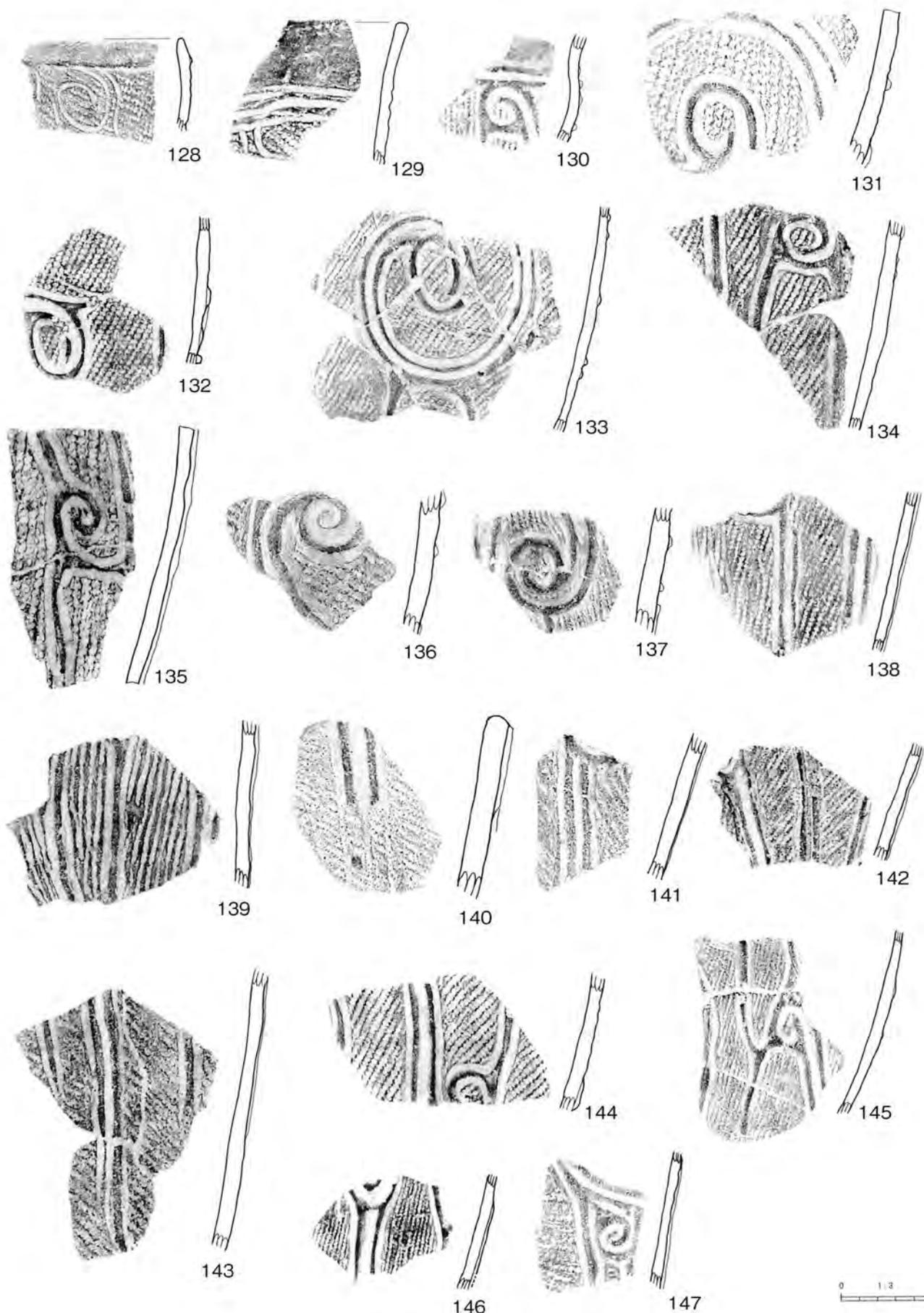
第 17 図 遺構外出土土器 4



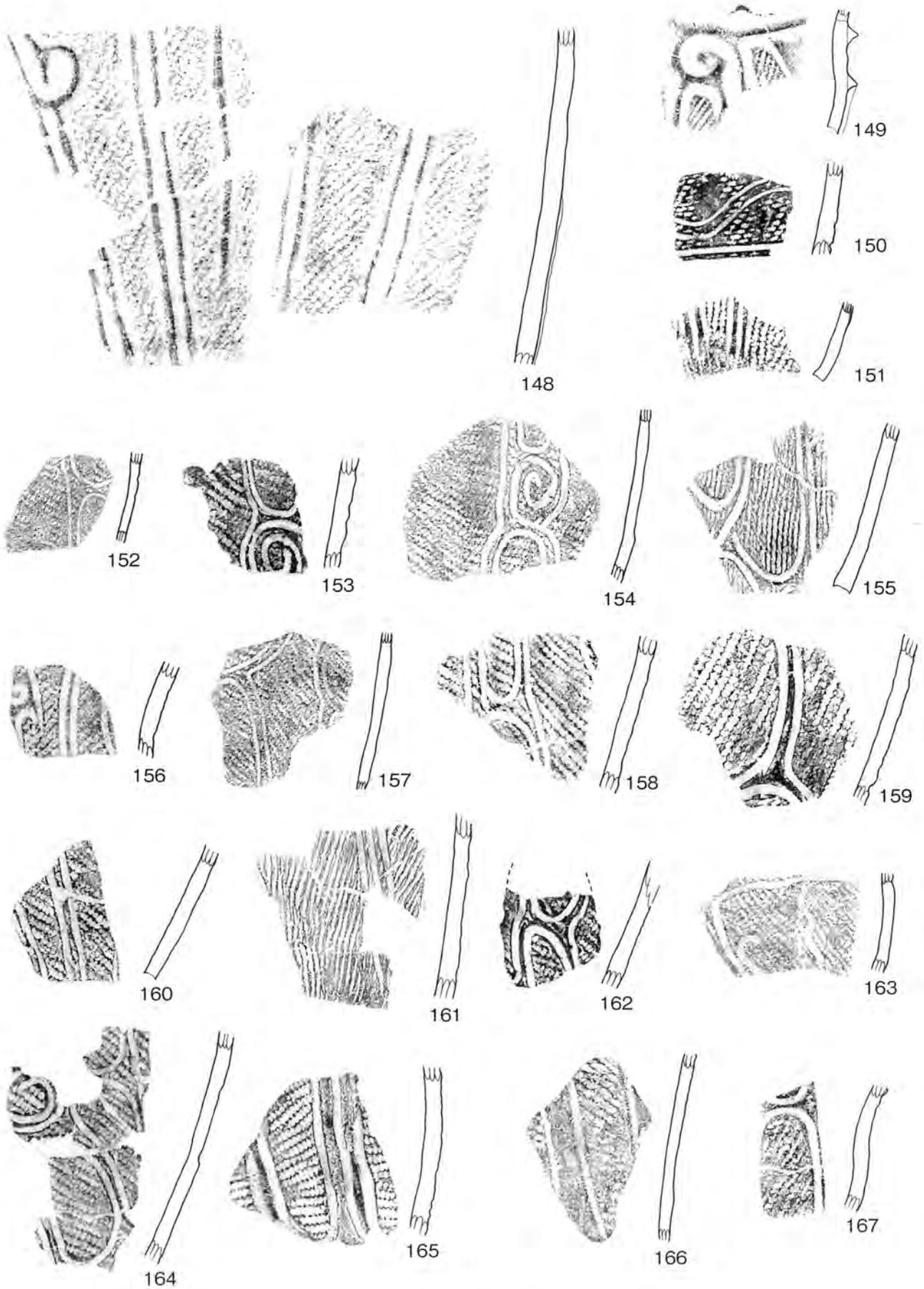
第 18 図 遺構外出土土器 5



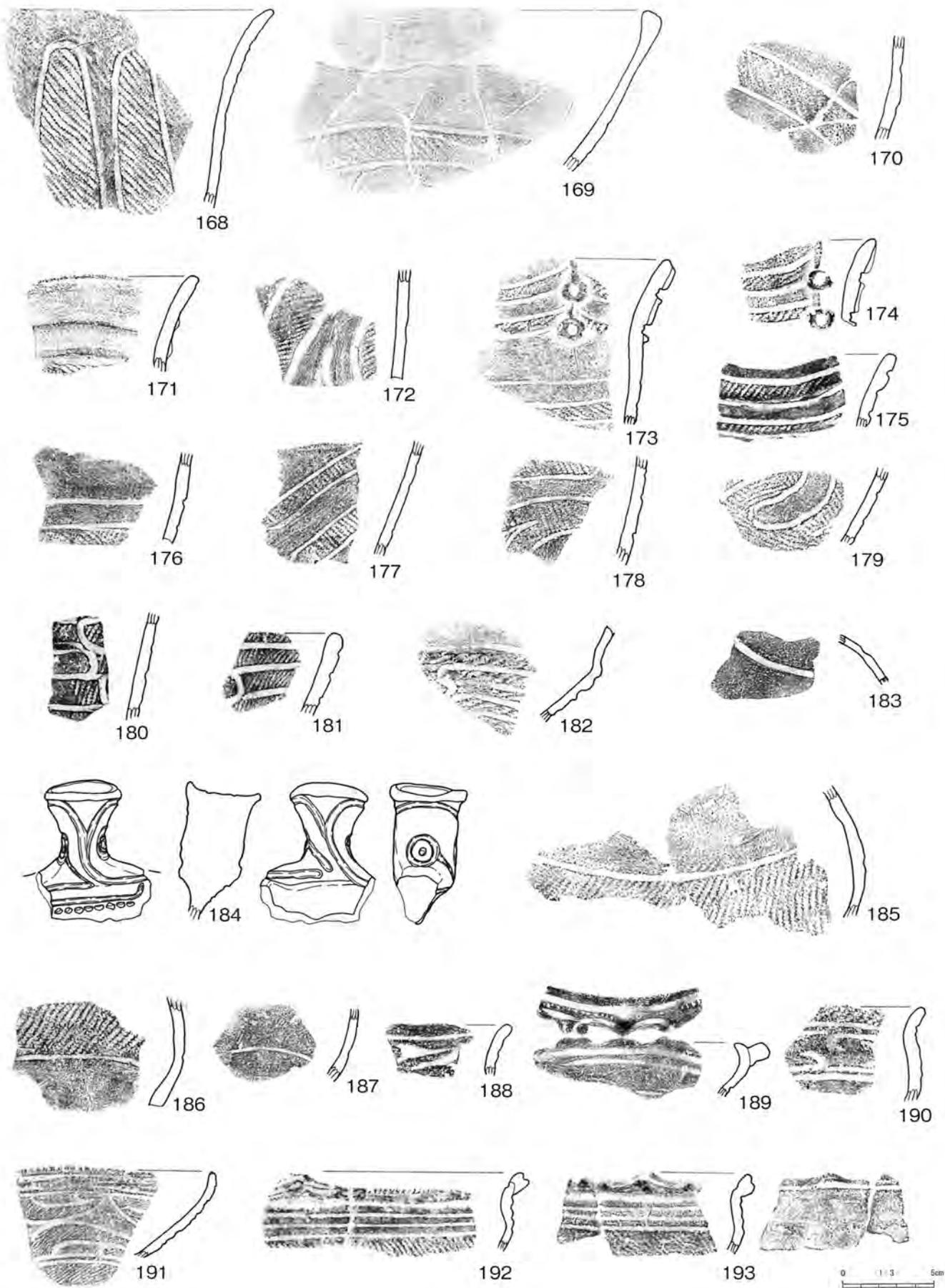
第 19 図 遺構外出土土器 6



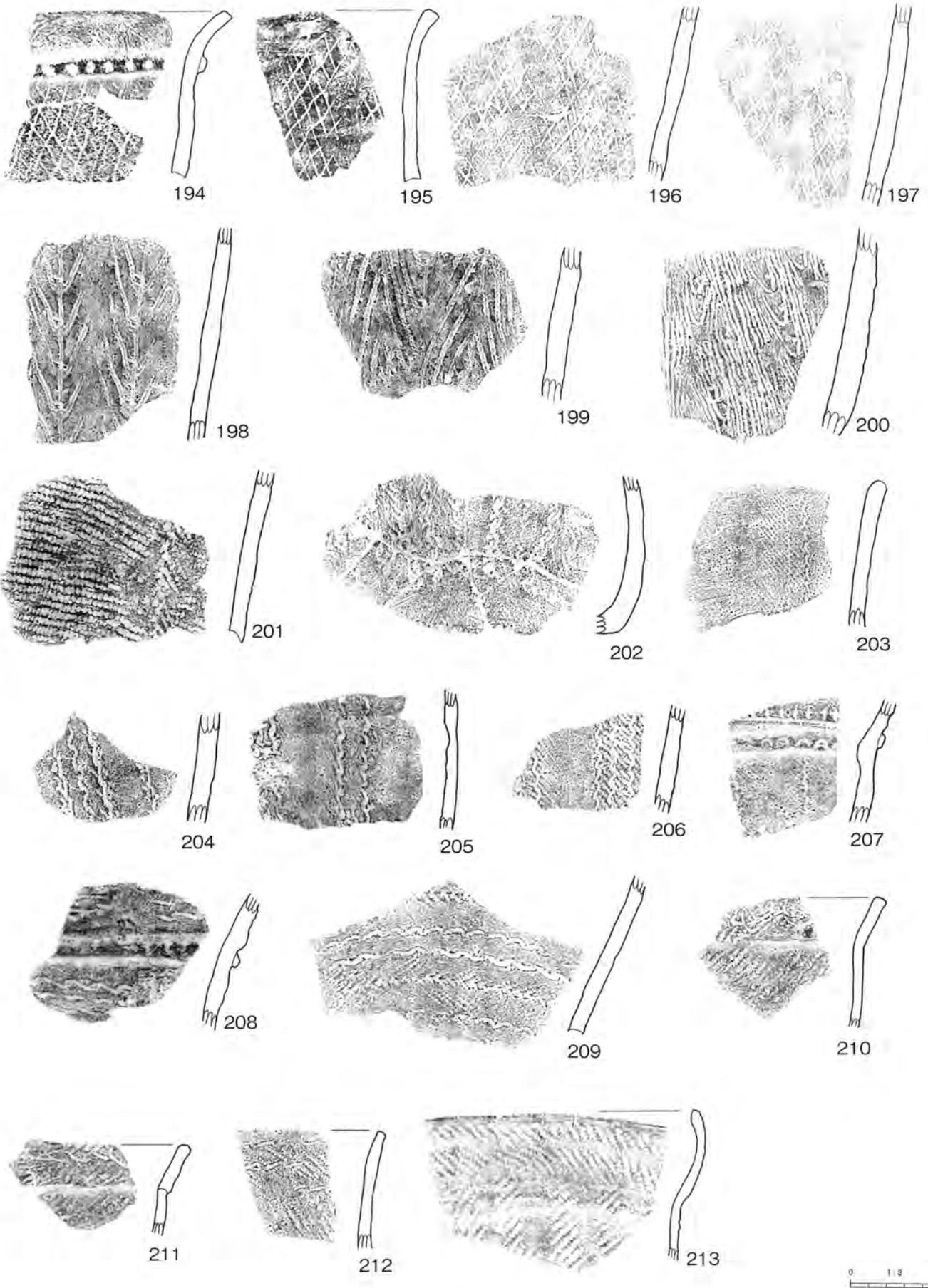
第 20 图 遺構外出土器 7



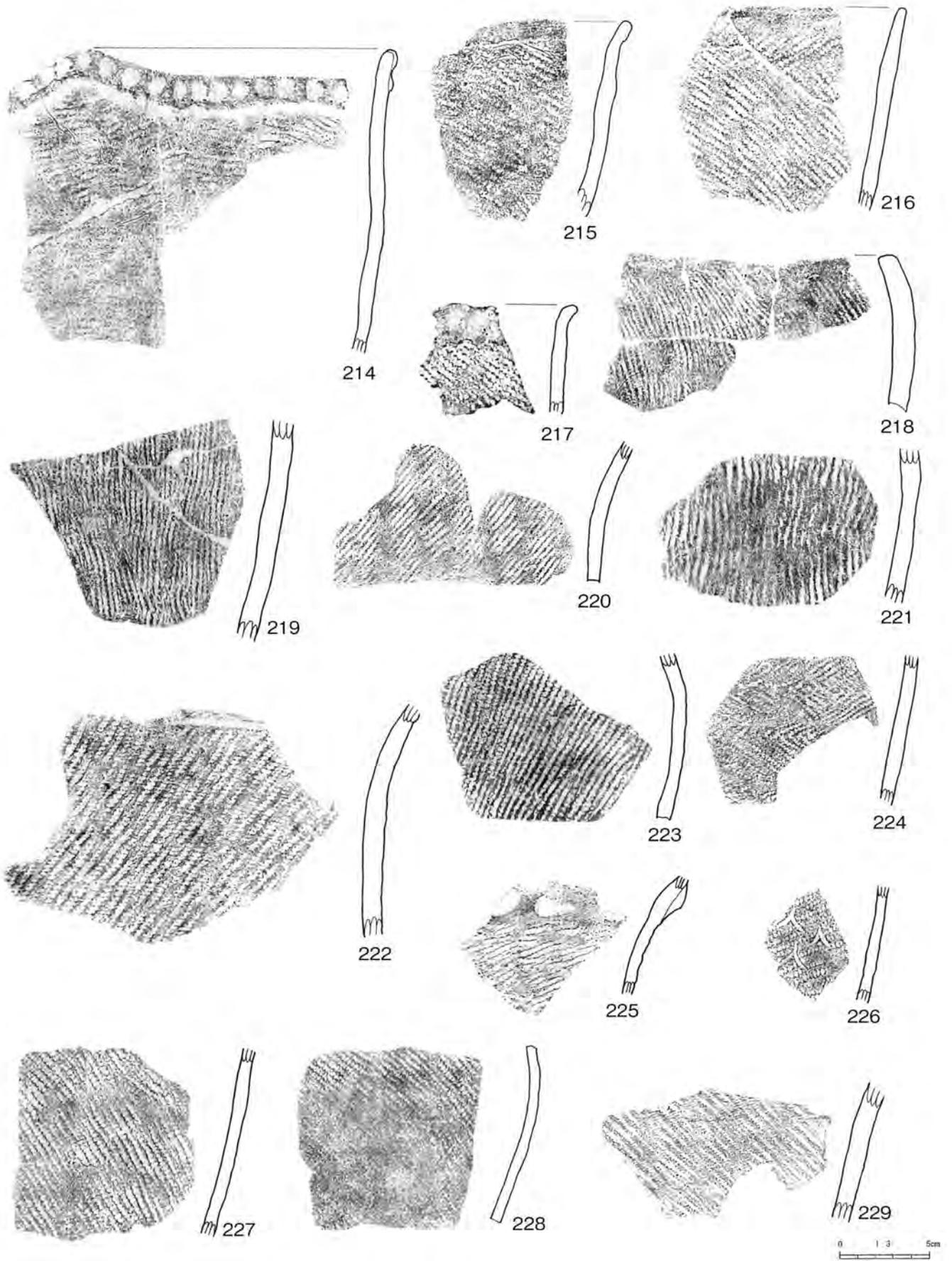
第 21 圖 遺構外出土器 8



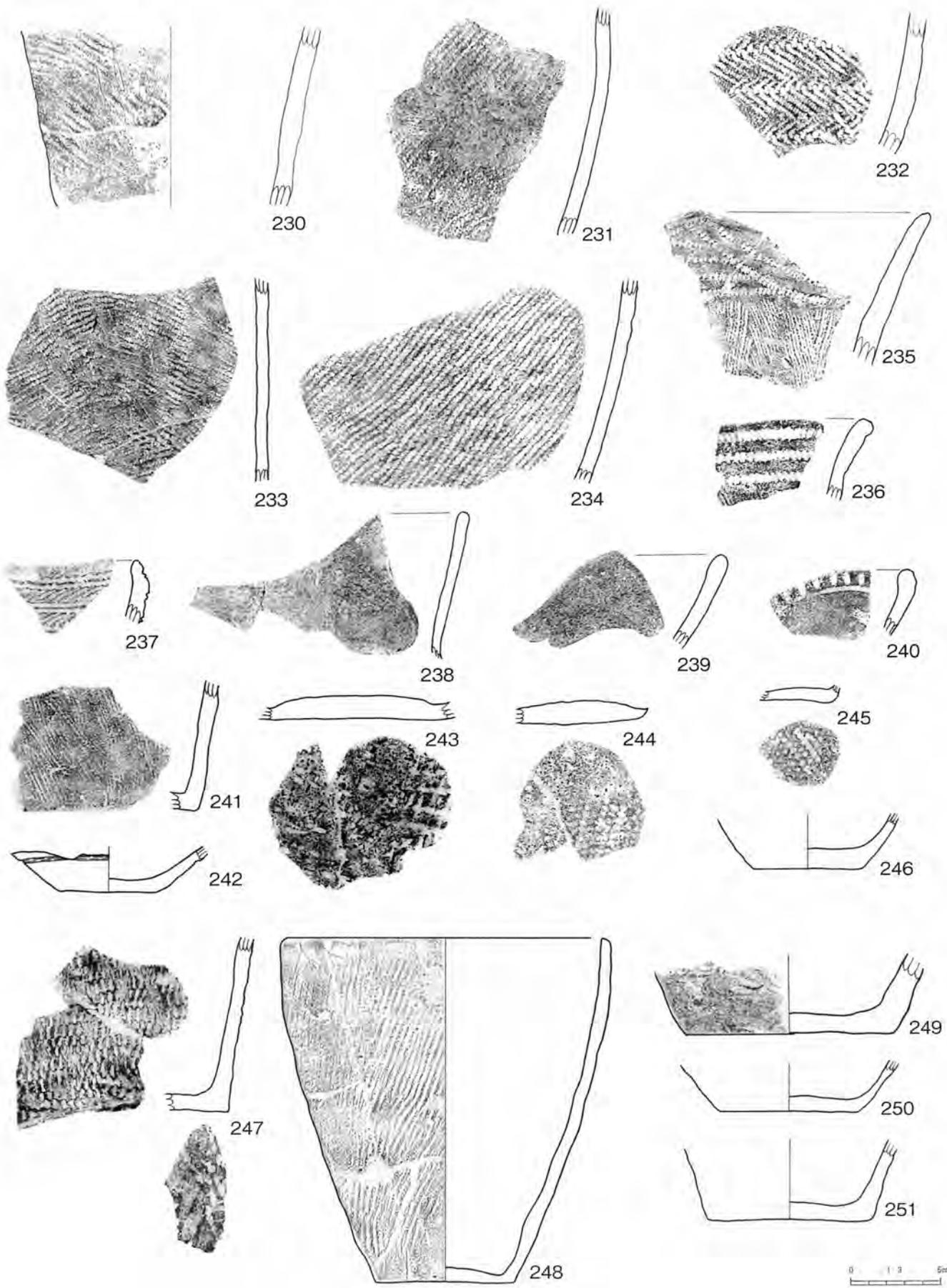
第 22 図 遺構外出土土器 9



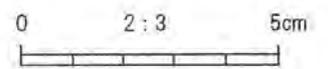
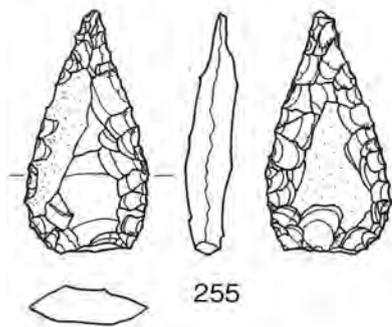
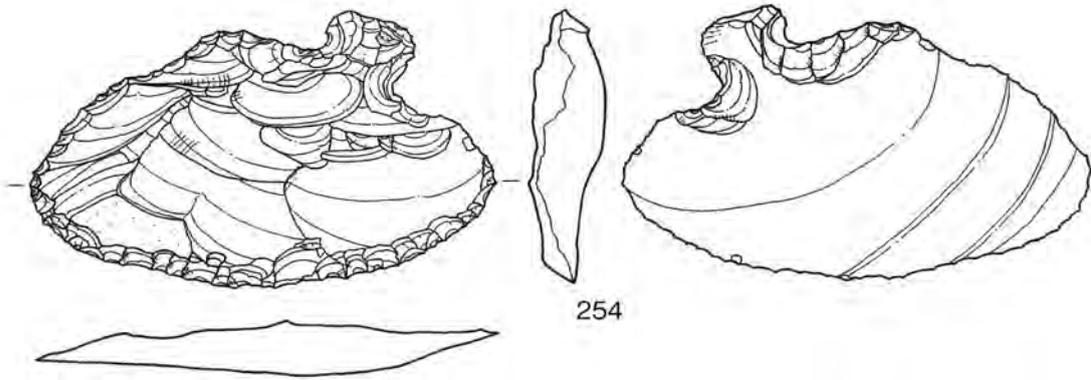
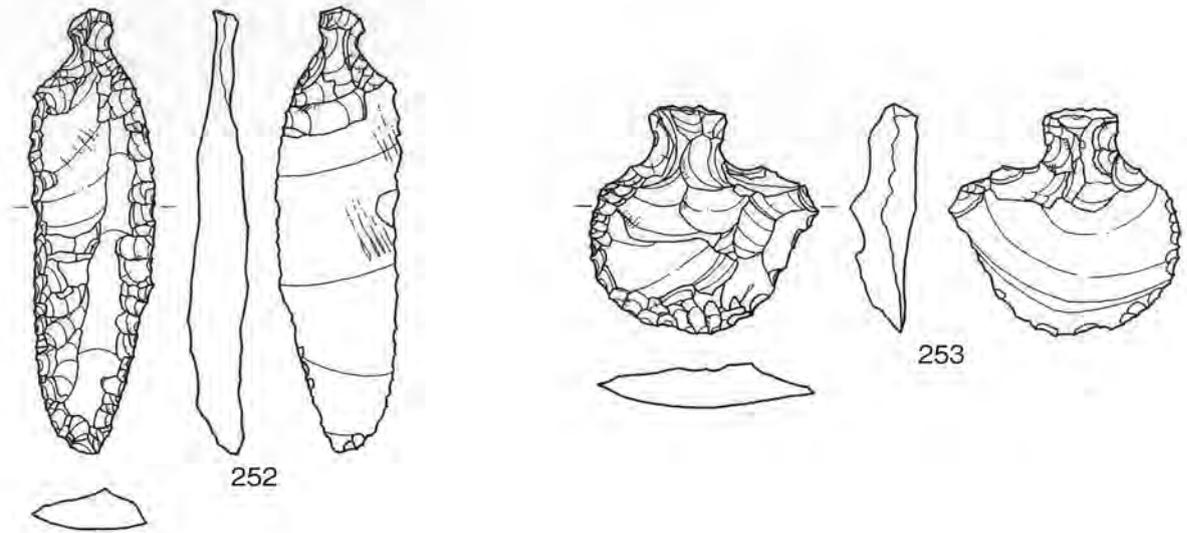
第 23 図 遺構外出土土器 10



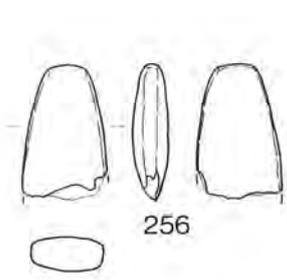
第 24 図 遺構外出土土器 11



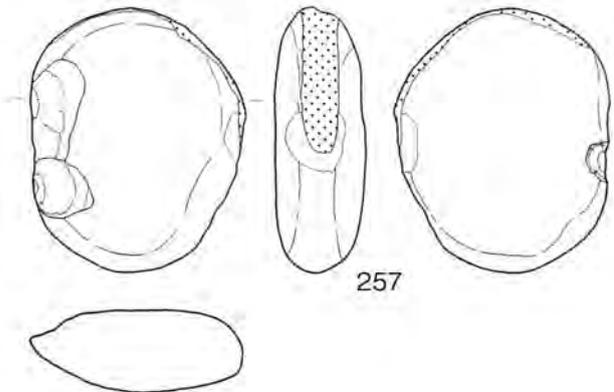
第 25 图 遺構外出土器 12



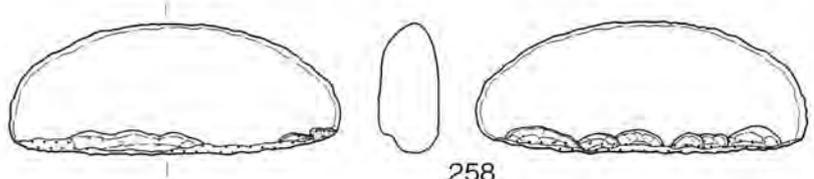
第 26 図 遺構外出土石器 1



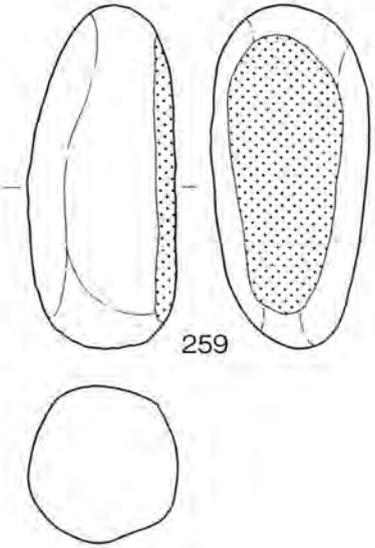
256



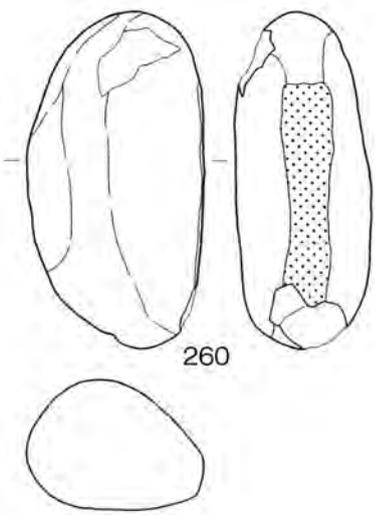
257



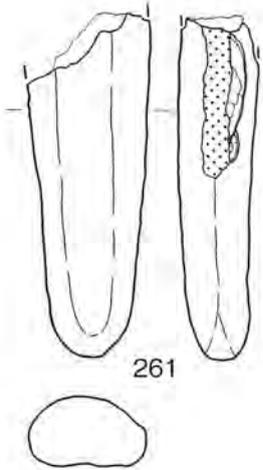
258



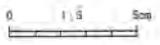
259



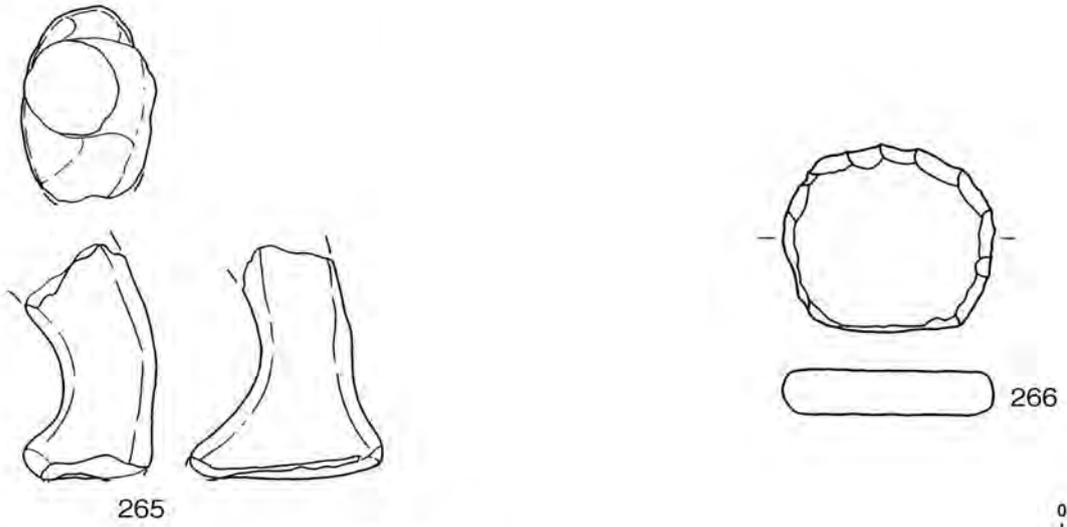
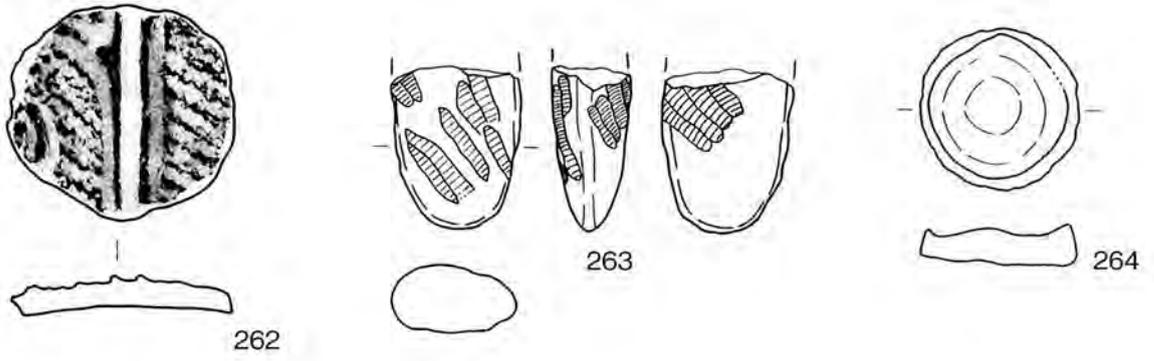
260



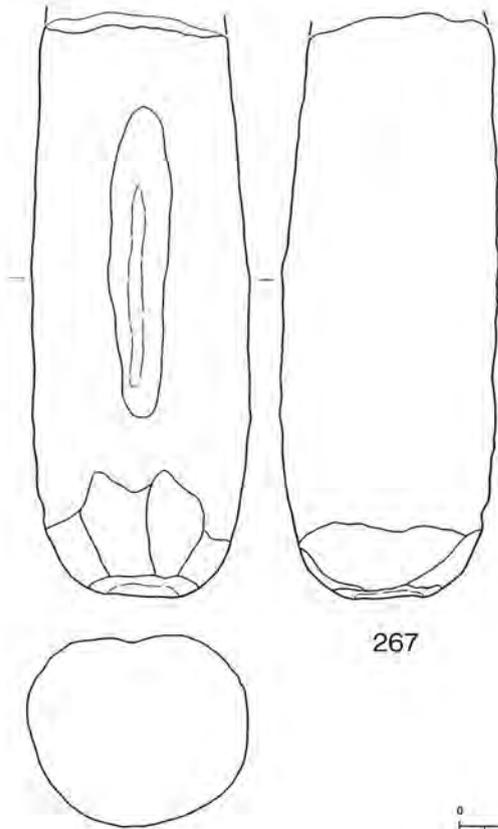
261



第 27 図 遺構外出土石器 2



0 1:2 5cm



0 1:2 5cm

第 28 図 遺構外出土土製品・石製品

第1表 出土遺物観察表

No.	出土地点	部位	文様、装飾	土器分類
第12図 1	2号炉	口縁部～底部	R燃糸文 RL縄文 渦巻状の隆帯 隆帯による区画	Ⅱ群2類
2	2号炉	口縁部～胴部	RL縄文 渦巻状の隆帯	Ⅱ群2類
第13図 1	2号炉	胴部	RL縄文 渦巻状の隆帯	Ⅱ群2類
2	1号埋設土器	胴部～底部	LR縄文 結節縄文 底面に木葉痕	V群
第14図 1	南東部 Ⅲ層	口縁部	口唇部に突起 刻み目が施された隆帯	I群
2	Ⅲ層	口縁部	鋸歯状沈線	I群
3	Ⅲ層	胴部	鋸歯状沈線	I群
4	Ⅲ層	口縁部	RL縄文 結節縄文 集合沈線 渦巻状の沈線 三叉文	Ⅱ群1類
5	Ⅲ層	口縁部	集合沈線 渦巻状の沈線 三叉文	Ⅱ群1類
6	Ⅲ層	口縁部	R縄文 平行・山形の竹管文	Ⅱ群1類
7	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	R縄文 結節縄文 連続する短沈線 連続刺突 橋状把手	Ⅱ群1類
8	Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 結節縄文 平行・山形の竹管文 沈線 隆帯による口縁部の区画	Ⅱ群1類
9	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL・LR縄文(羽状) 結節縄文 連続する半円状の沈線 平行沈線 橋状把手	Ⅱ群1類
10	北部 Ⅱ層	口縁部～胴部	RL縄文 山形沈線 連続刺突 平行沈線	Ⅱ群1類
11	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 交互刺突	Ⅱ群1類
12	Ⅳ層	口縁部	鋸歯状の微隆線	Ⅱ群1類
13	北部 Ⅲ層	口縁部	RL縄文 交互刺突 渦巻状・曲線状の沈線	Ⅱ群1類
14	南東部 Ⅲ層	口縁部	平行・山形の竹管文	Ⅱ群1類
15	東部	口縁部	竹管文	Ⅱ群1類
16	13と同一個体			
17	23号土坑周辺 Ⅲ層	胴部	RL・LR縄文(羽状) 平行・山形の竹管文 円形の突起	Ⅱ群1類
18	南東部 Ⅲ層	胴部	RL縄文(羽状) 山形の竹管文 沈線 半円状の沈線	Ⅱ群1類
第15図 19	東部 Ⅳ層	口縁部～胴部	LR縄文 渦巻状・ボタン状突起 平行・山形・渦巻状の竹管文	Ⅱ群1類
20	東部 Ⅳ層	口縁部	RL縄文口唇部押圧 渦巻状の貼付	Ⅱ群1類
21	東部 Ⅳ層	口縁部	LR縄文原体圧痕文 渦巻状の貼付 沈線	Ⅱ群1類
22	Ⅲ層～Ⅳ層	口縁部	渦巻状の貼付	Ⅱ群1類
23	19と同一個体			
24	北部 Ⅲ層	口縁部	隆帯 沈線	Ⅱ群1類
25	24と同一個体			
26	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	原体圧痕文 RL縄文 X字状貼付 波状沈線 沈線による区画文 従位の平行沈線	Ⅱ群1類
27	26と同一個体			
28	Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文 刺突が施された逆U字状の貼付	Ⅱ群1類
29	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	原体圧痕文 突起	Ⅱ群1類
30	Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文 押圧された隆帯 把手状の突起	Ⅱ群1類
31	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 隆帯による区画文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
32	Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文	Ⅱ群1類
33	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
34	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 隆帯による区画文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
35	Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文 円形の穿孔	Ⅱ群1類
36	東部 Ⅳ層	口縁部～胴部	RL・LR縄文(羽状) 原体圧痕文 突起	Ⅱ群1類
37	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
第16図38	北部 Ⅲ層	口縁部	RL縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
39	Ⅲ層	口縁部～胴部	L縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
40	東部 Ⅳ層	口縁部	原体圧痕文	Ⅱ群1類
41	Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文	Ⅱ群1類
42	北部 Ⅱ層	口縁部	LR縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
43	Ⅳ層	口縁部～胴部	RL縄文 原体圧痕文 結節縄文 刺突が施された隆帯	Ⅱ群1類
44	北部 Ⅱ層	口縁部	LR縄文 原体圧痕文 曲線状の平行沈線	Ⅱ群1類
45	Ⅲ層	口縁部	RL縄文 原体圧痕文 突起	Ⅱ群1類

No.	出土地点	部位	文様、装飾	土器分類
46	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 隆帯による区画文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
47	Ⅲ層～Ⅳ層	口縁部	LR縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
48	46、50と同一個体			
49	Ⅳ層	口縁部～胴部	RL縄文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
50	46、48と同一個体			
51	東部 Ⅲ層	胴部	縄文 原体圧痕 隆帯	Ⅱ群1類
52	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 隆帯による区画文 原体圧痕文	Ⅱ群1類
53	南東部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 原体圧痕文 隆帯	Ⅱ群1類
54	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 原体圧痕文 隆帯	Ⅱ群1類
55	北部 Ⅱ層	胴部	縄文 原体圧痕 隆帯 突起	Ⅱ群1類
56	東部 Ⅳ層	胴部	LR縄文 原体圧痕文 隆帯	Ⅱ群1類
57	北部 Ⅲ層	口縁部	LR縄文 隆帯	Ⅱ群1類
58	北部 Ⅲ層～Ⅳ層	口縁部	隆帯 連続刺突	Ⅱ群1類
59	北部 Ⅱ層	口縁部	隆帯 連続刺突 沈線	Ⅱ群1類
60	北部 Ⅲ層	口縁部	隆帯 沈線	Ⅱ群1類
61	北部 Ⅲ層	口縁部	口唇部に刻み目 平行沈線 連続刺突	Ⅱ群1類
62	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部	渦巻状の貼付 連続刺突	Ⅱ群1類
63	Ⅳ層	口縁部	曲線状の隆帯 竹管文	Ⅱ群1類
64	Ⅲ層	口縁部	平行竹管文 連続する半円状の沈線	Ⅱ群1類
65	北部 Ⅲ層	口縁部	集合沈線 平行沈線 連続する半円状の沈線 突起	Ⅱ群1類
66	Ⅳ層	口縁部	LR縄文 渦巻状・平行の竹管文 連続する半円状の沈線	Ⅱ群1類
67	北部 Ⅲ層	口縁部	多重沈線 縦長の突起	Ⅱ群1類
68	北部 Ⅲ層	口縁部	平行沈線 集合沈線 押圧された隆帯	Ⅱ群1類
69	Ⅲ層	口縁部	連続刺突 突起	Ⅱ群1類
第17図 70	北部 Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文 口唇部に刻み目 押圧された隆帯 突起	Ⅱ群1類
71	Ⅲ層	口縁部～胴部	原体圧痕文 隆帯 突起	Ⅱ群1類
72	Ⅲ層	口縁部	縦長の突起 隆帯	Ⅱ群1類
73	Ⅲ層	口縁部	連続刺突を施された隆帯	Ⅱ群1類
74	Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 口唇部に突起 沈線 平行沈線	Ⅱ群1類
75	北部 Ⅱ層	口縁部	口唇部押圧 縄文 隆帯	Ⅱ群1類
76	Ⅲ層	口縁部	口唇部窪み 多重沈線 突起 縦長の突起	Ⅱ群1類
77	Ⅳ層	口縁部～胴部	LR縄文 口縁部外面剥落 集合沈線 平行沈線	Ⅱ群1類
78	Ⅲ層	口縁部	口唇部押圧 縄文 曲線状・平行沈線	Ⅱ群1類
79	Ⅲ層	口縁部～胴部	口唇部に山形の隆帯 原体圧痕文	Ⅱ群1類
80	Ⅲ層	口縁部～胴部	連続刺突 竹管文	Ⅱ群1類
81	Ⅲ層	口縁部～胴部	押圧された隆帯 沈線 結節縄文	Ⅱ群1類
82	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	縄文 矢羽根状の沈線	Ⅱ群1類
83	東部 Ⅳ層	口縁部～胴部	隆帯 X字状・Y字状の貼付	Ⅱ群1類
84	Ⅲ層	口縁部～胴部	鋸歯状の刻み	Ⅱ群1類
85	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	隆帯 連続刺突	Ⅱ群1類
86	Ⅲ層	胴部	集合沈線 平行沈線	Ⅱ群1類
87	北部 Ⅱ層	口縁部	RL縄文 沈線による区画文	Ⅱ群2類
88	南東部 Ⅲ層	口縁部	RL縄文 隆帯による区画文	Ⅱ群2類
89	北部 Ⅲ層	口縁部	RL縄文 渦巻状の隆帯	Ⅱ群2類
90	Ⅲ層	口縁部	原体圧痕文 隆帯 突起	Ⅱ群2類
91	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文 隆帯	Ⅱ群2類
92	南東部 Ⅲ層	口縁部	隆帯による区画文 渦巻状隆帯 短沈線	Ⅱ群2類
93	Ⅲ層	口縁部～胴部	渦巻状沈線	Ⅱ群2類
第18図 94	Ⅲ層	口縁部～胴部	縄文 曲線状の隆帯	Ⅱ群2類
95	北部 Ⅲ層	口縁部	LR縄文(羽状) 平行沈線	Ⅱ群2類
96	東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文 隆帯による区画文 沈線	Ⅱ群2類
97	表採	口縁部	RL縄文 隆帯による区画文 渦巻状沈線 沈線	Ⅱ群2類
98	Ⅲ層	胴部	LR縄文 平行沈線	Ⅱ群2類
99	94と同一個体			
100	Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 渦巻状沈線	Ⅱ群2類

No.	出土地点	部位	文様、装飾	土器分類
101	北部 Ⅲ層	□縁部～胴部	LR縄文 隆帯	Ⅱ群2類
102	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
103	北部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
104	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
第19図 105	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 円形沈線	Ⅱ群2類
106	南東部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 円形の刺突	Ⅱ群2類
107	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 円形の隆帯 隆帯	Ⅱ群2類
108	Ⅱ層～Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
109	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
110	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 隆帯	Ⅱ群2類
111	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
112	東部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
113	北部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 隆帯	Ⅱ群2類
114	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
115	東部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 曲線状隆帯	Ⅱ群2類
116	北部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
117	北部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 隆帯による区画文 沈線	Ⅱ群2類
118	南東部 Ⅲ層	□縁部～胴部	縄文 隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
119	Ⅱ層～Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
120	Ⅲ層	□縁部～胴部	隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
121	Ⅲ層	□縁部～胴部	渦巻状隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
122	Ⅲ層	□縁部～胴部	隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
123	Ⅱ層～Ⅲ層	□縁部	隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
124	Ⅲ層	□縁部～胴部	LR縄文 隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
125	Ⅲ層	□縁部～胴部	隆帯 円形の連続刺突	Ⅱ群2類
126	北部 Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 曲線状沈線 隆帯	Ⅱ群2類
127	126と同一個体			
第20図 128	Ⅲ層	□縁部～胴部	RL縄文 隆帯 渦巻状沈線	Ⅱ群2類
129	南東部 Ⅲ層	□縁部～胴部	LR縄文 平行沈線	Ⅱ群2類
130	南東部 Ⅲ層	□縁部～胴部	縄文 隆帯 渦巻状沈線	Ⅱ群2類
131	Ⅲ層	胴部	RLR縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
132	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
133	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
134	南東部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 隆帯による区画文	Ⅱ群2類
135	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 隆帯による区画文	Ⅱ群2類
136	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
137	南東部 Ⅲ層	胴部	R撚糸文 渦巻状隆帯	Ⅱ群2類
138	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 隆帯	Ⅱ群2類
139	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	R撚糸文 隆帯	Ⅱ群2類
140	北部 Ⅱ層	胴部	L縄文 隆帯	Ⅱ群2類
141	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	縄文 隆帯	Ⅱ群2類
142	南東部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 隆帯	Ⅱ群2類
143	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	L縄文 隆帯	Ⅱ群2類
144	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 隆帯	Ⅱ群2類
145	Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 隆帯による区画文	Ⅱ群2類
146	Ⅲ層	胴部	RL縄文 隆帯	Ⅱ群2類
147	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	縄文 隆帯	Ⅱ群2類
第21図 148	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	縄文 隆帯	Ⅱ群2類
149	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状隆帯 隆帯	Ⅱ群2類
150	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 波状・横位の沈線	Ⅱ群2類
151	Ⅲ層	胴部	RL縄文 隆帯	Ⅱ群2類
152	Ⅲ層	胴部	RL縄文 沈線	Ⅱ群2類
153	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 渦巻状沈線	Ⅱ群2類
154	南東部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 渦巻状沈線	Ⅱ群2類
155	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	R撚糸文 曲線状沈線	Ⅱ群2類
156	南東部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 曲線状沈線	Ⅱ群2類
157	Ⅲ層	胴部	RL縄文 曲線状沈線	Ⅱ群2類
158	Ⅲ層	胴部	LR縄文 曲線状沈線	Ⅱ群2類
159	Ⅲ層	胴部	RL縄文 曲線状沈線	Ⅱ群2類

No.	出土地点	部位	文様、装飾	土器分類
160	Ⅲ層	胴部	LR縄文 沈線	Ⅱ群2類
161	南東部 Ⅲ層	胴部	R撚糸文 沈線	Ⅱ群2類
162	Ⅲ層	胴部	RL縄文 曲線状沈線	Ⅱ群2類
163	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 曲線状・蛇行状沈線	Ⅱ群2類
164	Ⅲ層	胴部	LR縄文 渦巻状・曲線状沈線	Ⅱ群2類
165	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 隆線 沈線	Ⅱ群3類
166	23号土坑周辺 Ⅲ層	胴部	LR縄文 磨消縄文	Ⅱ群3類
167	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 磨消縄文	Ⅱ群3類
第22図 168	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 磨消縄文	Ⅱ群3類
169	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文 磨消縄文	Ⅱ群3類
170	169と同一個体			
171	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	縄文 曲線状の微隆線	Ⅱ群3類
172	Ⅲ層	胴部	RL縄文 磨消縄文	Ⅱ群3類
173	23号土坑周辺 Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文 磨消縄文 円形の突起	Ⅲ群1類
174～179	173と同一個体			
180	東部 Ⅲ層	胴部	RL縄文 磨消縄文 蛇行状沈線	Ⅲ群1類
181	Ⅲ層	胴部	RL縄文 磨消縄文 蛇行状沈線	Ⅲ群1類
182	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文 磨消縄文 蛇行状沈線	Ⅲ群1類
183	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	沈線	Ⅲ群1類
184	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部	突起 沈線 連続刺突	Ⅲ群1類
185	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 沈線	Ⅲ群1類
186	185と同一個体			
187	北部 Ⅲ層	胴部	縄文 沈線	Ⅲ群1類
188	北部 Ⅲ層	口縁部	沈線 三叉文	Ⅲ群2類
189	北部 Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	沈線 刺突 B字状突起	Ⅲ群2類
190	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	沈線 C字文	Ⅲ群2類
191	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 口唇部刻み 羊歯状文 雲形文	Ⅲ群2類
192	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	口唇部に突起 RL縄文 平行沈線	Ⅲ群2類
193	192と同一個体			
第23図 194	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	網目状撚糸文 押圧された隆帯	Ⅳ群
195	Ⅳ層	口縁部～胴部	網目状撚糸文	Ⅳ群
196	Ⅲ層	胴部	網目状撚糸文	Ⅳ群
197	南東部 Ⅲ層	胴部	網目状撚糸文	Ⅳ群
198	東部 Ⅲ層	胴部	木目状撚糸文	Ⅳ群
199	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	木目状撚糸文	Ⅳ群
200	Ⅲ層	胴部	木目状撚糸文	Ⅳ群
201	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文	Ⅳ群
202	Ⅲ層	胴部	結節縄文	Ⅳ群
203	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 結節縄文	Ⅳ群
204	北部 Ⅲ層	胴部	結節縄文	Ⅳ群
205	東部 Ⅳ層	胴部	結節縄文	Ⅳ群
206	南東部 Ⅲ層	胴部	LR縄文 結節縄文	Ⅳ群
207	南東部 Ⅲ層	胴部	結節縄文 半円状の連続刺突を施す隆帯 連続刺突 沈線	Ⅳ群
208	北部 Ⅲ層	胴部	結節縄文(横位) 隆帯	Ⅳ群
209	Ⅲ層	胴部	LR・RL縄文(羽状) 結節縄文(横位)	Ⅳ群
210	東部 Ⅳ層	口縁部～胴部	LR縄文 沈線	Ⅳ群
211	210と同一個体			
212	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文 結節縄文(横位)	Ⅳ群
213	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文	Ⅳ群
第24図 214	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	縄文 折り返し口縁 押圧	Ⅳ群
215	Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文	Ⅳ群
216	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	LR縄文	Ⅳ群
217	北部 Ⅲ層	口縁部～胴部	RL縄文	Ⅳ群
218	南東部 Ⅲ層	口縁部～胴部	R撚糸文	Ⅳ群
219	218と同一個体			
220	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文	Ⅳ群
221	南東部 Ⅲ層	胴部	R撚糸文	Ⅳ群
222	表採	胴部	RL縄文 沈線	Ⅳ群

No.	出土地点	部位	文様、装飾	土器分類
223	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文	Ⅳ群
224	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL・LR縄文	Ⅳ群
225	Ⅲ層	胴部	LR縄文 把手状の突起	Ⅳ群
226	北部 Ⅱ層	胴部	LR縄文 沈線	Ⅳ群
227	Ⅲ層	胴部	RL縄文	Ⅳ群
228	北部 Ⅲ層	胴部	RL縄文	Ⅳ群
229	北部 Ⅱ層	胴部	LR縄文	Ⅳ群
第25図 230	南東部 Ⅲ層	胴部	縄文	Ⅳ群
231	北部 Ⅲ層	胴部	LR縄文	Ⅳ群
232	南東部 Ⅲ層	胴部	RL・LR縄文(羽状)	Ⅳ群
233	北部 Ⅱ層	胴部	RL縄文	Ⅳ群
234	Ⅱ層～Ⅲ層	胴部	RL縄文	Ⅳ群
235	Ⅲ層	口縁部～胴部	R撚糸文 連続刺突	V群
236	23号土坑周辺 Ⅲ層	口縁部	連続刺突	V群
237	北部 Ⅲ層	口縁部	LR縄文 平行沈線	V群
238	Ⅱ層～Ⅲ層	口縁部～胴部	無文	V群
239	Ⅲ層	口縁部	無文	V群
240	Ⅲ層	口縁部	沈線 刻み目	V群
241	南東部 Ⅲ層	底部	R撚糸文	V群
242	Ⅱ層～Ⅲ層	底部	沈線	V群
243	Ⅲ層	底部	網代痕	V群
244	Ⅱ層～Ⅲ層	底部	網代痕	V群
245	Ⅲ層	底部	網代痕	V群
246	北部 Ⅲ層	底部	無文	V群
247	Ⅲ層	胴部～底部	連続刺突	V群
248	南東部 Ⅲ層	口縁部～底部	R撚糸文	V群
249	Ⅲ層	底部	縄文	V群
250	北部 Ⅱ層	底部	無文	V群
251	Ⅲ層	底部	無文	V群

No.	出土地点	器種	規模(長さ、幅、厚さ)	重量(g)
第26図 252	北部 Ⅱ層	石匙	8.8cm、2.4cm、0.9cm	17.3
253	Ⅲ層	石匙	4.5cm、4.5cm、1.2cm	15.7
254	Ⅱ層～Ⅲ層	石匙	5.3cm、9.2cm、1.4cm	53.7
255	南東部 Ⅲ層	石鏃	4.7cm、2.4cm、0.9cm	8.2
第27図 256	Ⅳ層	磨製石斧	5.5cm、4cm、1.4cm	38.2
257	Ⅲ層	磨石	10.5cm、8.5cm、3.4cm	500.4
258	Ⅲ層	磨石	5.3cm、13.2cm、2.5cm	278.3
259	東部 Ⅲ層	磨石	13.9cm、5.9cm、6.3cm	740
260	東部 Ⅲ層	磨石	13.5cm、7.0cm、5.2cm	660
261	Ⅳ層	磨石	13.8cm、4.9cm、2.8cm	243.6
第28図 262	北部 Ⅲ層	土製円盤	5.7cm、6.0cm、0.8cm	—
263	Ⅲ層	斧形土製品	4.4cm、3.5cm、1.8cm	—
264	Ⅱ層～Ⅲ層	土製品	4.2cm、4.3cm、1.05cm	—
265	Ⅲ層	土偶	—	—
266	南東部 Ⅲ層	石製円盤	5.5cm、5.0cm、1.2cm、	47.1
267	Ⅱ層～Ⅲ層	石棒	23.4cm、8.5cm、7.6cm	2330

### (3) 調査のまとめ

重茂館遺跡群発掘調査第5次調査では縄文時代に属する4基の炉跡、1基の埋設土器と土坑が検出され、縄文時代中期を主体とした前期から晩期の遺物が出土した。

#### 遺構

2号炉は埋設土器、石囲炉、前庭部からなる複式炉である。市内ではトロノ木I遺跡で同じ組み合わせでの複式炉が検出されている。それ以外の炉跡はいずれも単独の石囲炉である。時期は2号炉のみ炉周辺で出土した深鉢形の土器(第12図1)あるいは逆位の埋設土器(第12図2、第13図1)で判断できるが、他は出土遺物がなく不明とせざるを得なかった。しかし、周辺から出土した遺物から概ね縄文時代中期中葉と判断される。1号埋設土器については正位でやや東に傾けて埋設されていた。埋設された縄文土器は胴部から底部にかけての深鉢形土器(第13図2)で、外面に黒斑が見られるものの、赤く被熱しているなど特記すべきものは観察されない。このため、用途は不明とせざるを得ない。

#### 遺物

遺物については当調査で最も多く出土しているII群1類、2類と分類した縄文時代中期中葉の土器について補足することとしたい。

II群1類は大木7a、7b式土器としたものである。口縁部文様帯に集合沈線、三叉状の陰刻、交互刺突文、竹管文、渦巻状隆線の貼付、原体圧痕文などバラエティーに富む。胴部文様帯には縄文の他、隆帯、原体圧痕文、従位の結節縄文が多い。破片資料が多いため細分できなかったが、第14図4、7、13、第15図19、20、21、第17図77は大木7a式に、第15図26、27、31、34、第16図50は大木7b式に属するものと考えられる。

II群2類は大木8a、8b式土器としたものである。口縁部文様帯の文様構成は大木7a、7b式に比べ集約され、渦巻をモチーフとした隆線あるいは無文とするものが多い。胴部文様帯には地文のみもあるが、口縁部文様帯が狭く渦巻をモチーフとした隆線や垂下した隆線が多い。その中で、第17図87～92、第18図94～99は大木8a式に、その他のII群2類は大木8b式に属するものと考えられる。第12図1、2は全体の形が分かる大木8b式土器で、1は胴部に小型の渦巻状の隆線が多用されるが、大型の渦巻文が1単位施されている。2の土器は胴部文様帯が小型の渦巻状による隆線と垂下した隆線からなる。いずれも口縁部文様帯が衰退しており、大木8b式の中でも終わりの時期の所産と考えられる。

#### 結語

重茂館遺跡群の第1次調査区の西隣接地である当調査区からは縄文時代中期の遺構が検出された。第1次調査では斜面に縄文時代中期中葉の良好な遺物包含層が確認され、周辺で集落跡の確認が予測される結果であったが、今回の第5次調査により台地上に当該期の集落跡が展開されることが明らかとなった。今後の調査により縄文時代中期の集落の様相が明らかになることを期待したい。

#### 参考文献

- 宮古市教育委員会 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書』 1  
田村忠博 1986 『宮古地方の中世史 古城物語』  
丹羽 茂 1981 「大木式土器」『縄文文化の研究』 4  
宮古市教育委員会 1992 『重茂館遺跡群－第1次発掘調査報告書－』

# 写真図版



写真1 調査区近景1 (南西から)



写真2 調査区近景1 (北東から)



写真3 1号炉完掘状況  
(西から)

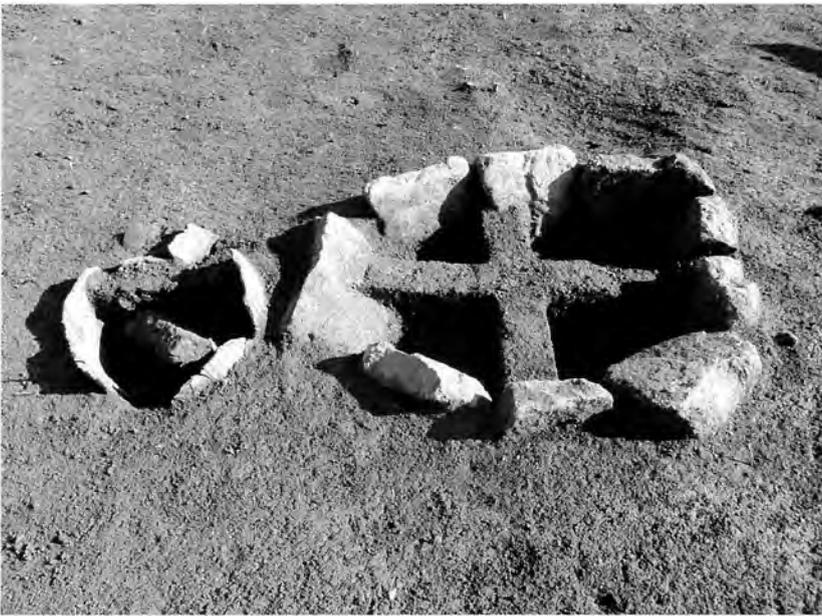


写真4 2号炉堆積状況  
(西から)



写真5 2号炉完掘状況  
(南から)



写真6 3号炉検出状況  
(東から)



写真7 3号炉完掘状況  
(南から)



写真8 4号炉完掘状況  
(東から)

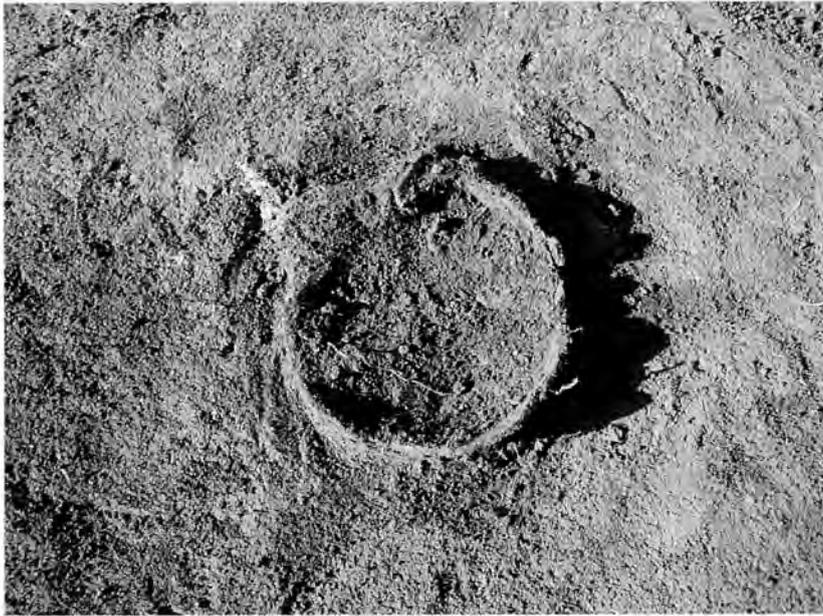


写真9 1号埋設土器検出状況  
(東から)



写真10 1号埋設土器完掘状況  
(東から)



写真11 23号土坑完掘状況  
(東から)



2号炉



2号炉埋設土器



2号炉埋設土器



1号埋設土器

写真 12 遺構内出土土器

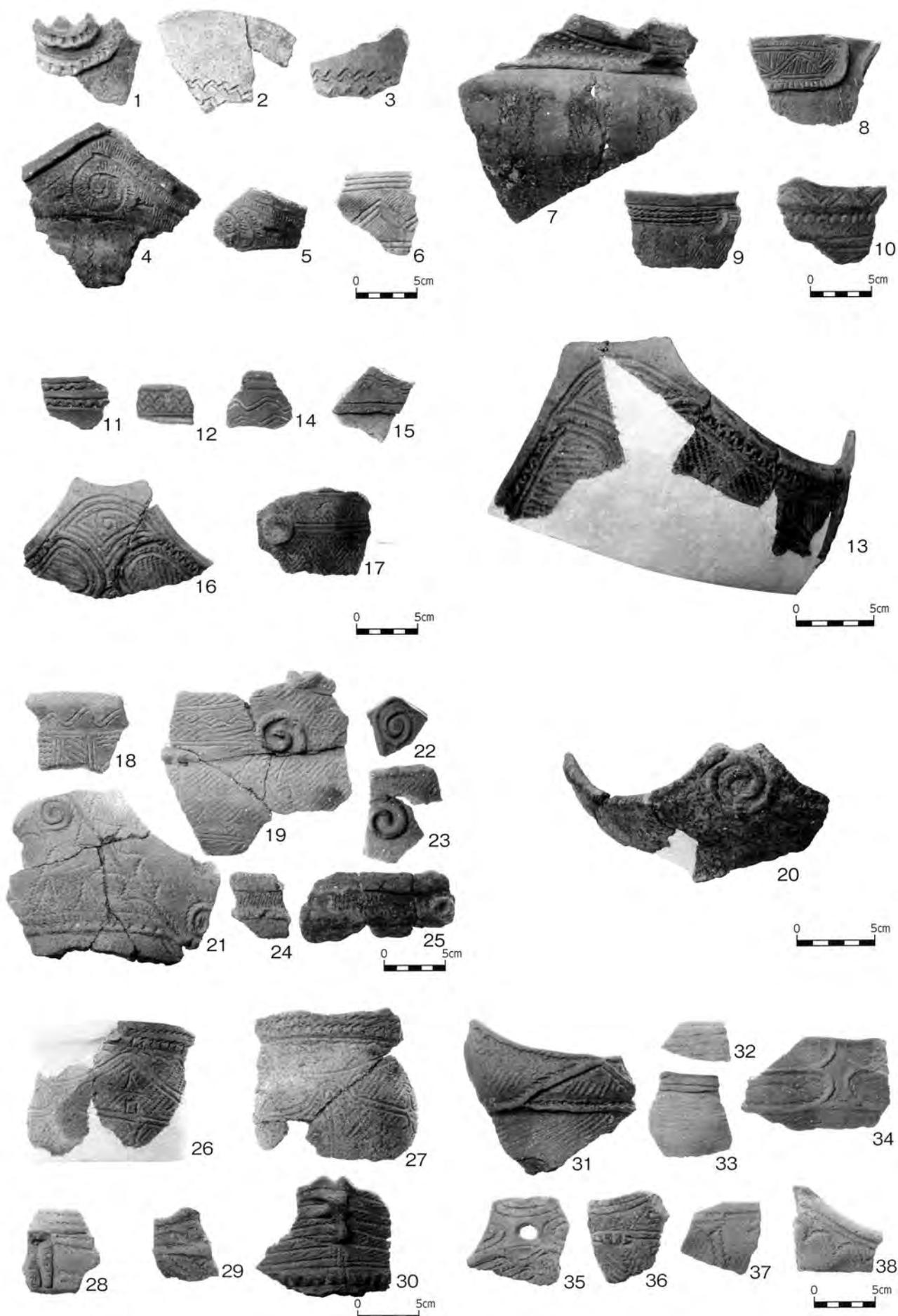


写真 13 遺構外出土器 1

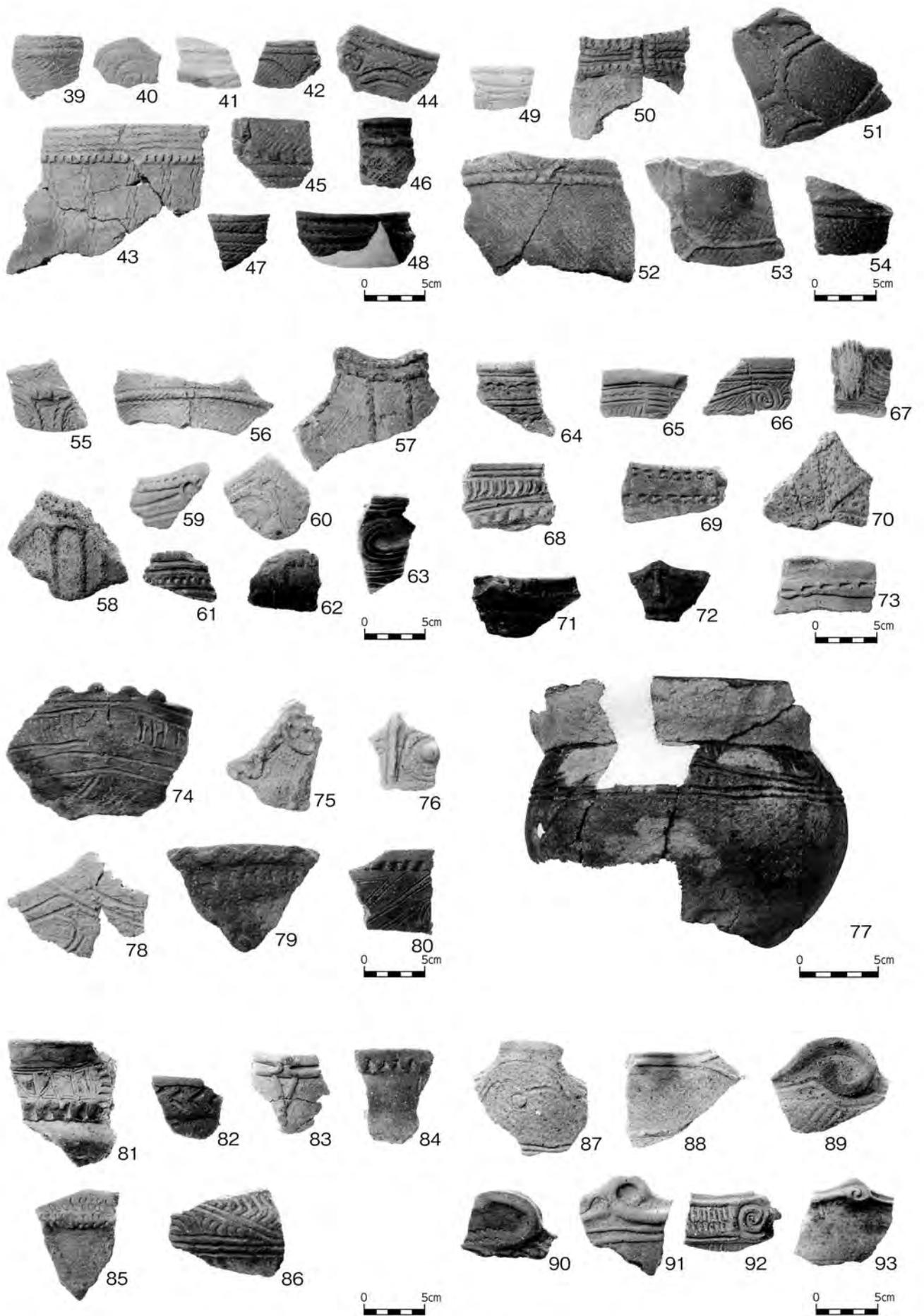


写真 14 遺構外出土土器 2

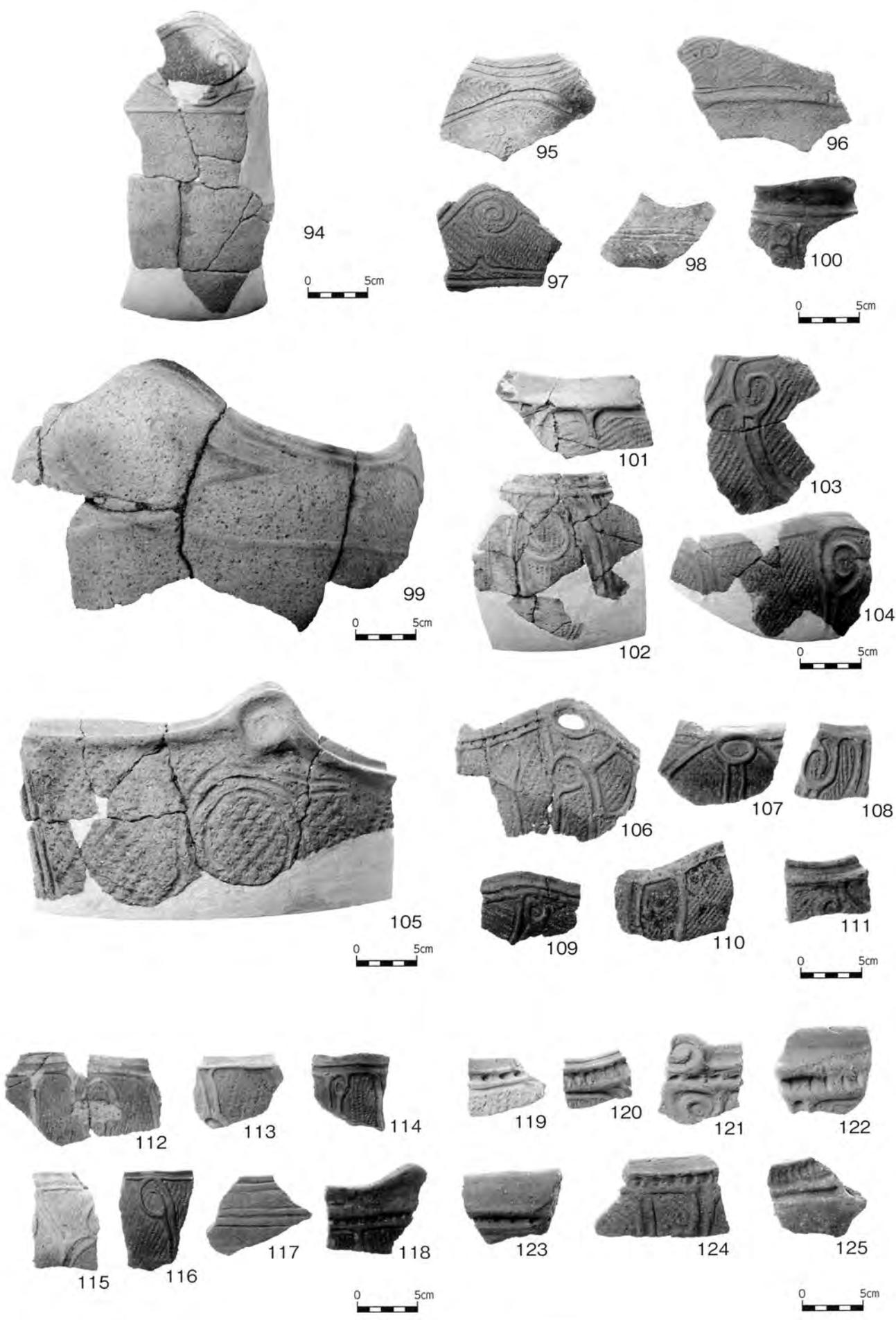


写真 15 遺構外出土器 3

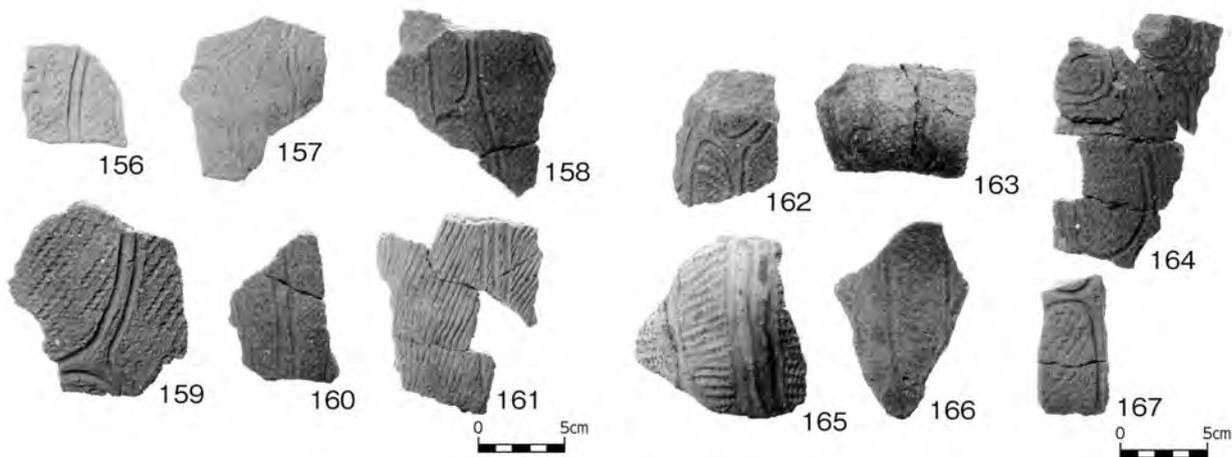
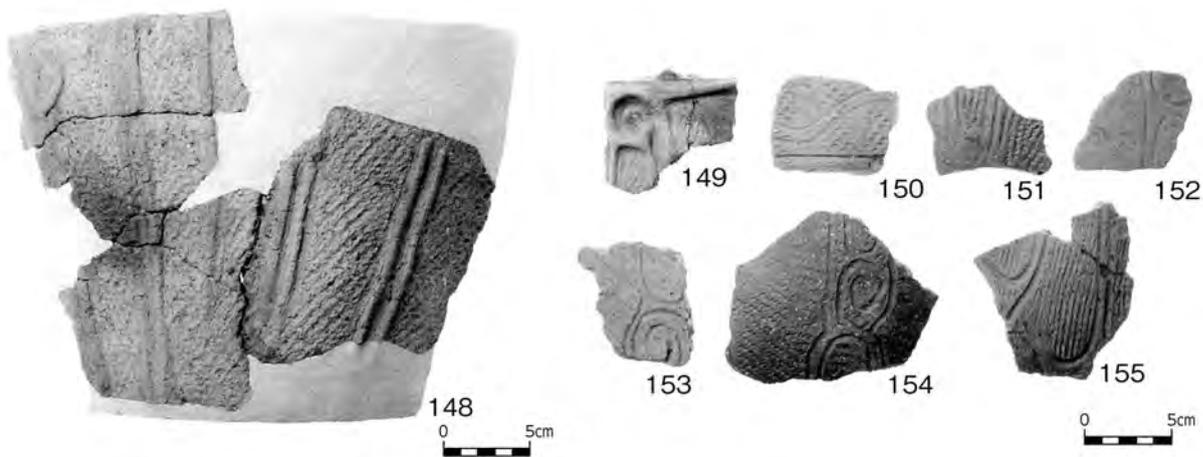
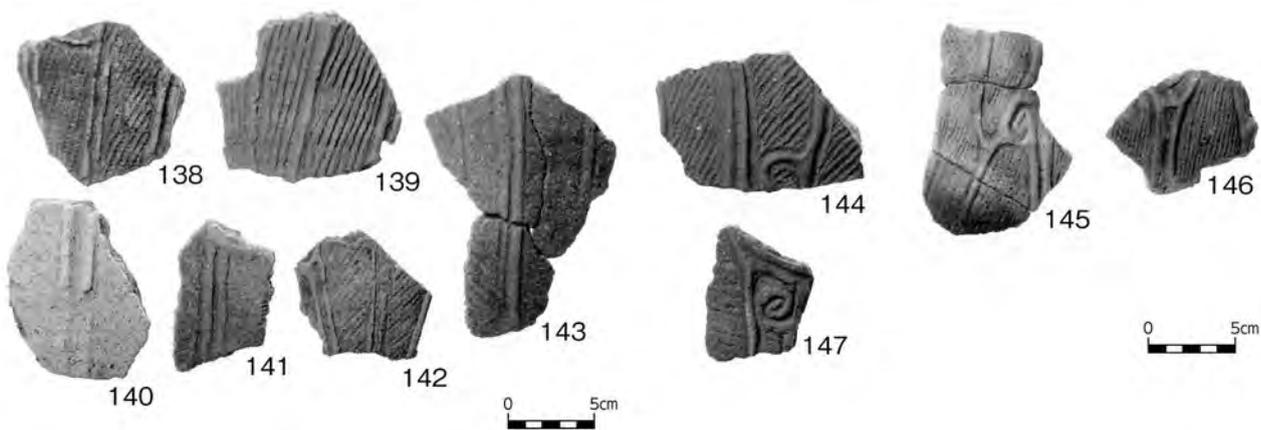
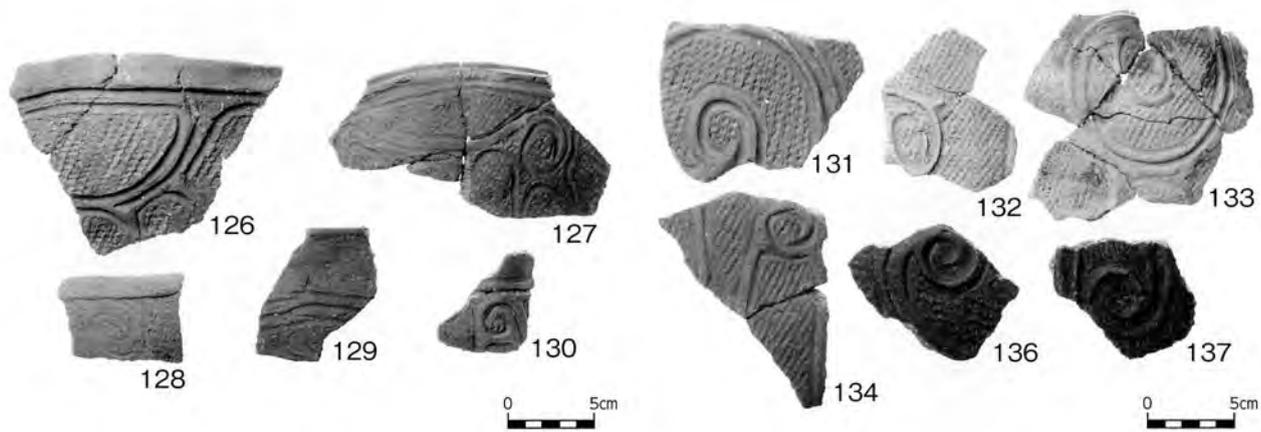


写真 16 遺構外出土土器 4

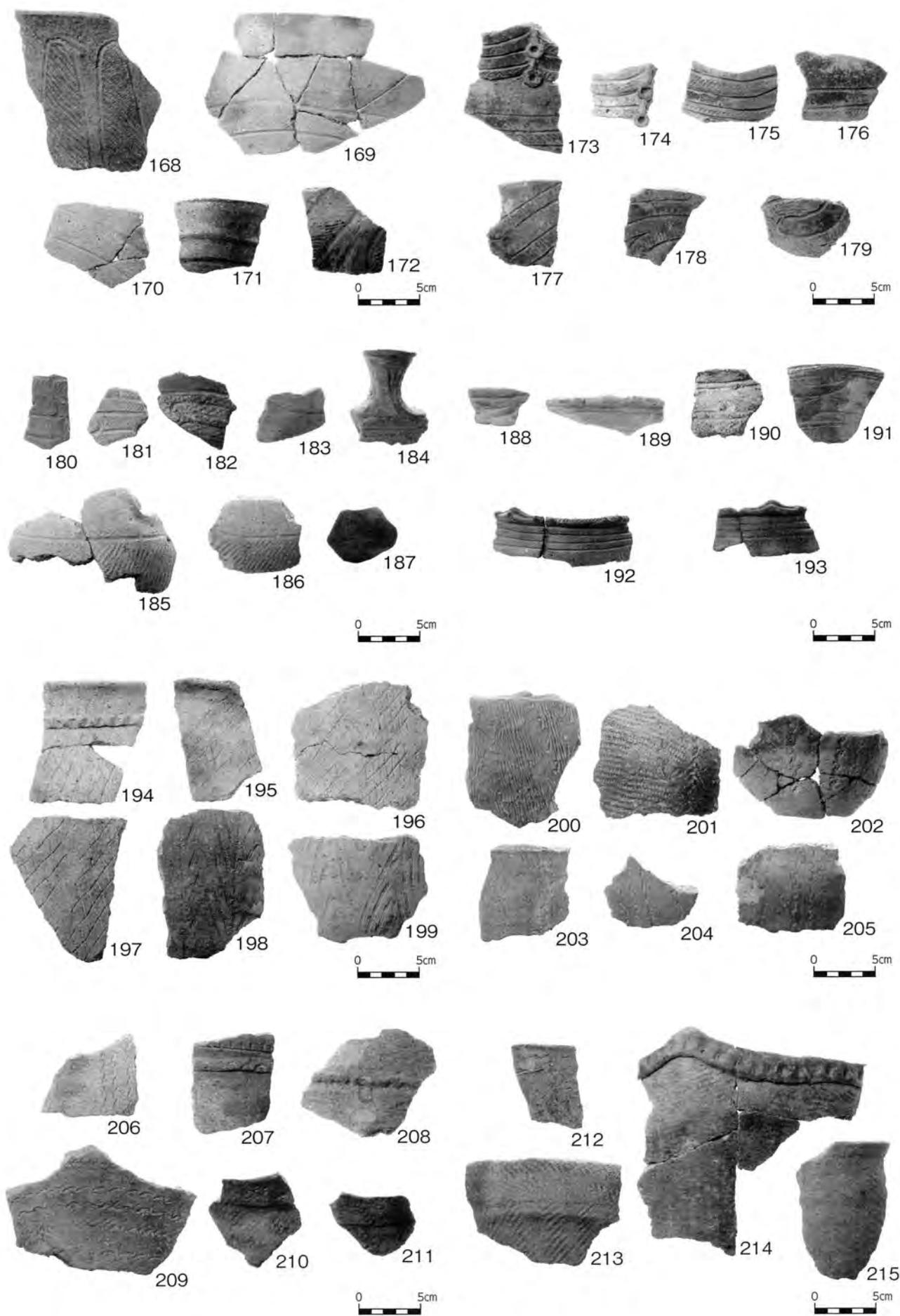


写真 17 遺構外出土土器 5

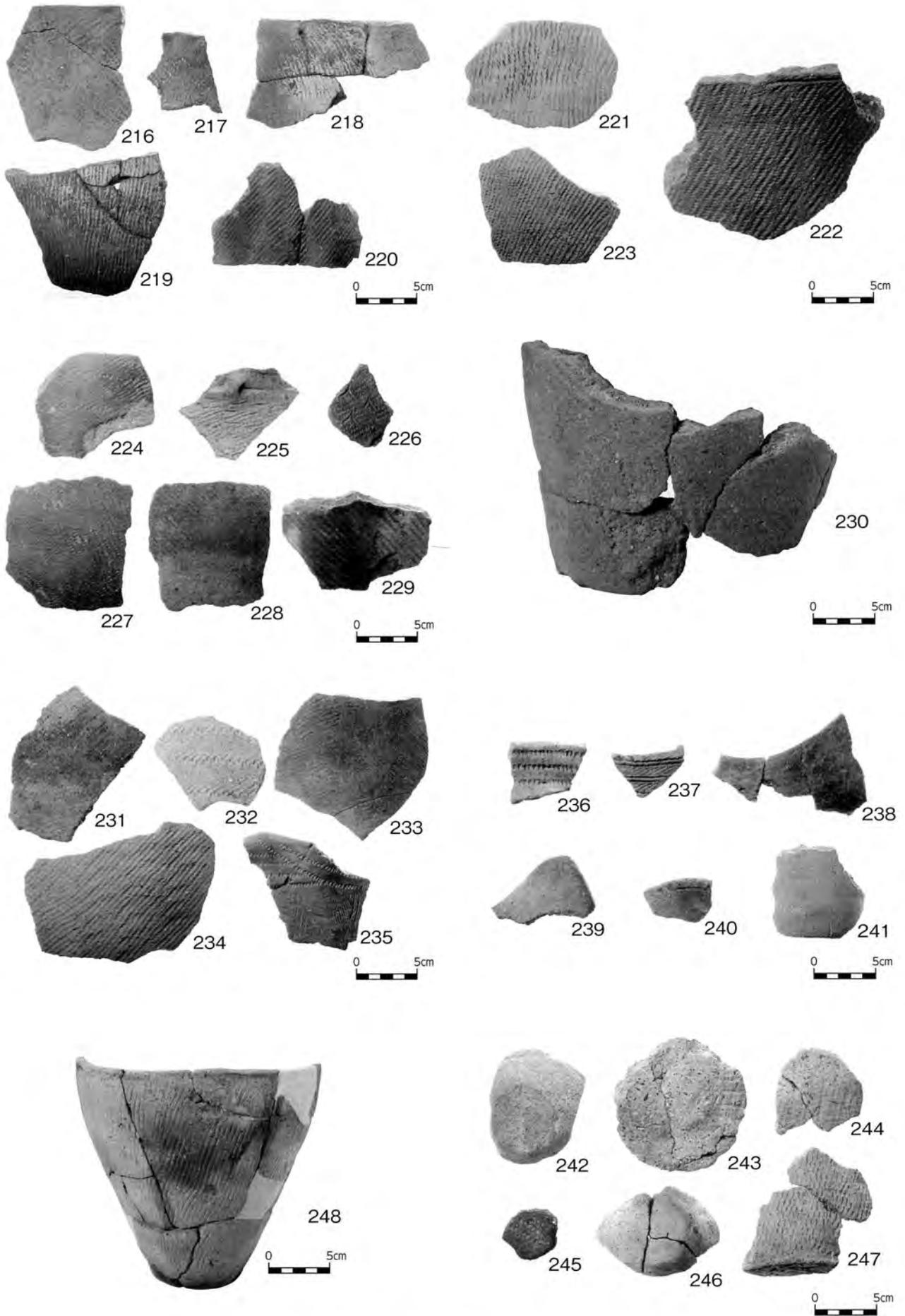


写真 18 遺構外出土土器 6

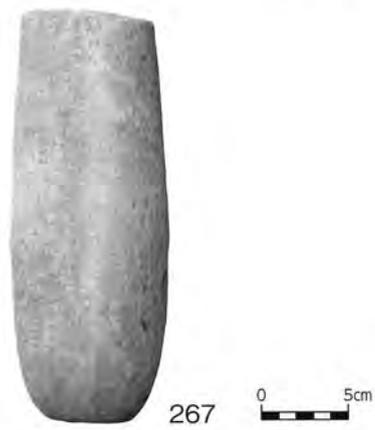
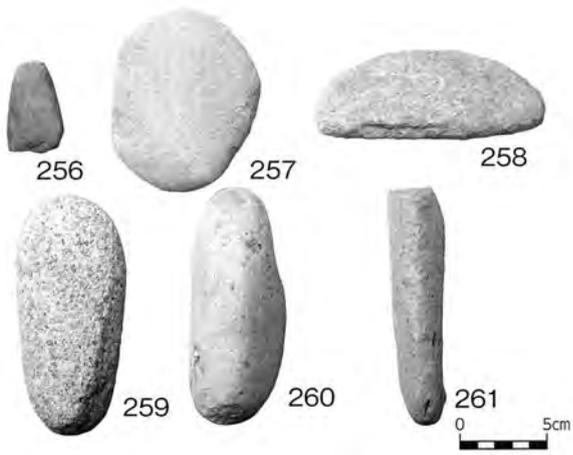
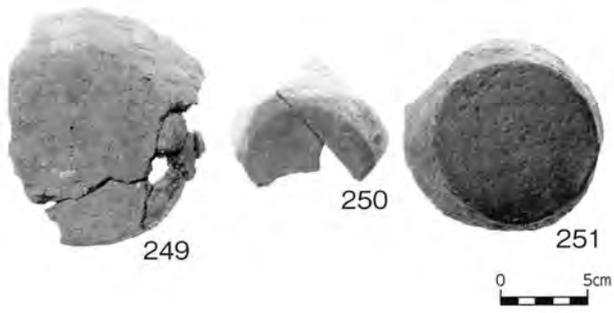


写真 19 遺構外出土土器、石器、土製品、石製品

## 報告書抄録

ふりがな	おもえたていせきぐん
書名	重茂館遺跡群
副書名	重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（第5次発掘調査）
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	89
編著者名	江口 邦泰
編集機関	岩手県宮古市教育委員会文化課
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
発行年月日	平成29年3月10日（2017年）

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おもえたていせきぐん 重茂館遺跡群	いわてけんみやこ 岩手県宮古 市重茂第1 ちわりぼんち 地割59番地 4、6	3202	LG75-0284	39° 35' 5"	142° 1' 18"	271201 ～ 271215	235㎡	給油所建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
重茂館遺跡群	集落跡、城館跡	縄文時代中期	炉跡4基 土坑1基 遺物包含層	縄文土器 石器 土製品 石製品	縄文時代中期の 炉跡が検出され た。

# 宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	56	2000	『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡－特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	57	2002	『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』	58	2002	『小沢Ⅱ大上遺跡－市内遺跡発掘調査報告書2－』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』	59	2003	『大又沢Ⅱ遺跡－東北電力宮古ハリポート移設工事関係発掘調査報告書－』
5	1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』	60	2003	『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡－市内遺跡発掘調査報告書3－』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』	61	2003	『早稲柄Ⅱ遺跡第6次調査－市内遺跡発掘調査報告書4－』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	62	2003	『下在家Ⅰ遺跡－平成14年度発掘調査報告書－』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』	63	2004	『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡－市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書－』
9	1986	『宮古市遺跡分布図－昭和60年度版－』	64	2005	『弘川館跡－瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書－』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	65	2006	『高浜Ⅵ地神遺跡－高浜四丁目地造成工事関係発掘調査報告書－』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』	66	2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲柄Ⅱ遺跡第7次調査－市内遺跡発掘調査報告書5－』
12	1987	『寒風・早稲柄Ⅳ遺跡調査報告書』	67	2006	『八木沢古館・八木沢中田遺跡・八木沢駒込Ⅰ遺跡－市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書－』
13	1987	『崎山遺跡群Ⅰ－昭和60年度発掘調査概報－』	68	2006	『木戸井内Ⅳ遺跡－宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書－』
14	1988	『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群（堀合館）－昭和62年度発掘調査報告書－』	69	2006	『菅ノ沢遺跡発掘調査－市内遺跡発掘調査報告書6－』
15	1988	『崎山遺跡群Ⅱ－昭和62年度発掘調査概報－』	70	2007	『山口館跡－市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』
16	1989	『千鶏遺跡－昭和62年度発掘調査報告書－』	71	2007	『近内館跡－宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書－』
17	1989	『トロノ木Ⅰ遺跡－第1～7次発掘調査報告書－』	72	2007	『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査－市内遺跡発掘調査報告書7－』
18	1989	『崎山遺跡群Ⅲ－昭和63年度発掘調査概報－』	73	2007	『弘川館跡第2次調査－宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書－』
19	1989	『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	74	2008	『荷竹日向Ⅳ遺跡－市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』
20	1989	『狐崎Ⅱ遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
21	1989	『崎山トロノ木Ⅳ遺跡－昭和63年度調査報告書－』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報（骨角器篇）』
22	1990	『狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－』	77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書6』
23	1990	『崎山遺跡群Ⅳ－平成元年度発掘調査概報－』	78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書7』
24	1990	『磯鶏館山遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	79	2012	『重茂館遺跡群－第2次発掘調査報告書－』
25	1990	『鎌ヶ崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』	80	2014	『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡－市道磯鶏浜線道路改良工事関係発掘調査報告書－』
26	1991	『崎山遺跡群Ⅴ－平成2年度発掘調査概報－』	81	2014	『蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡、山口駒込Ⅱ遺跡－市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書－』
27	1991	『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群－平成元年・2年度発掘調査報告書－』	82	2014	『赤畑東遺跡－山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書－』
28	1990	『熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	83	2015	『千徳城遺跡群－一条工務店建設工事関係発掘調査報告書－』
29	1991	『弘川Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』	84	2015	『黒森町Ⅰ遺跡－宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書－』
30	1992	『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』	85	2015	『菅ノ沢遺跡・柵館Ⅰ遺跡－市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書－』
31	1992	『重茂館遺跡群－第1次調査報告書－』	86	2016	『千徳城遺跡群－アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
32	1992	『黒森町Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』	87	2017	『重茂館遺跡群－重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－（第3次発掘調査）』
33	1992	『高根遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』	88	2017	『重茂館遺跡群－重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－（第4次発掘調査）』
34	1992	『鯉沢遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』			
35	1992	『大付遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』			
36	1992	『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡－農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
37	1992	『崎山遺跡群Ⅵ－平成3年度発掘調査概報－』			
38	1993	『萩沢Ⅱ遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』			
39	1993	『早稲柄Ⅱ遺跡－第1次・第2次発掘調査報告書－』			
40	1993	『崎山遺跡群Ⅶ－平成4年度発掘調査概報－』			
41	1994	『崎山遺跡群Ⅷ－平成5年度発掘調査概報－』			
42	1995	『赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』			
43	1995	『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』			
44	1995	『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』			
45	1995	『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡－市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
46	1995	『花原市遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』			
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲柄Ⅱ遺跡・崎山貝塚』			
48	1996	『大付遺跡－平成5年・6年度発掘調査報告書－』			
49	1997	『花原市遺跡－平成8年度発掘調査報告書－』			
50	1997	『白石遺跡－第6次発掘調査報告書－』			
51	1998	『赤畑・天神山・山口館－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』			
52	1998	『藤畑遺跡－平成9年度発掘調査報告書－』			
53	1999	『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡－水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
54	1999	『千鶏Ⅳ遺跡－水産課千鶏地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
55	1999	『崎山貝塚－第12次・13次内容確認調査概報』			

宮古市埋蔵文化財調査報告書 89

おもえたていせきぐん  
重茂館遺跡群

—重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—  
(第5次発掘調査)

印刷・発行	平成 29 年 3 月 10 日発行
発 行	岩手県宮古市教育委員会 〒 028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1 TEL 0193-72-2175 FAX 0193-64-0212
編 集	岩手県宮古市教育委員会 文化課 〒 027-0097 岩手県宮古市崎山 1-16-1 TEL 0193-65-7527 FAX 0193-65-7508
印 刷	株式会社文化印刷 〒 027-0037 岩手県宮古市松山 5-13-6 TEL 0193-62-4578 FAX 0193-64-0333



